

江戸名所圖會

七

ル 4
3605
7



門 凡 4
流 3605
巻 7

江戸名所圖會卷之三

天鏡之部目錄

七 永田馬場日吉山王神社

第 天満宮

寅藥師如來

富士見坂

溜池

海上人

霞山稲荷祠

廣尾毘沙門堂

土筆系

三法坂

真雲院

平川天満宮

千手觀世音

榎田

靈南坂

一本松

日觀音

廣尾系

森神明宮

松秀寺

梅ヶ原

成田下總守長泰舊地

貝塚

榎ヶ井

麻布普福寺

氷川明神社

子安藥師如來

廣尾系

氷川明神社

白倉野寺

氷城天満宮

栖岸院

清水坂

霞園舊跡

七佛藥師堂

祥雲禪寺

廣尾水車

電宮

覺林寺

英一蝶墓

志賀文庫

昭和十九年四月五日
三上正太郎

寶香齋其角墓 二本樓覺心寺 法林寺 兼教寺 上乃寺 圓志寺
 美林院の圖 正覺院 瑞聖寺 鎌作親音堂 誕生八幡宮 富士見景肆 大鼓橋
 元二大師堂 白浪妙見堂 明王院 蟠龍寺 岩窟辨財天 安養院 寐釋迦堂
 蛸藥師堂 圓通不動堂 愛深の玉 太子堂 虛空苑堂 獨活の湯 觀音堂 觀音堂 觀音堂
 大島明神社 金毘羅持現社 子代々海 長泉律師 碑文谷法華寺
 八 秋天主 觀音堂 二王門 根木
 大平山 満願寺 廣澤先生之墓 龍泉寺 一本系 圓通寺 舊跡 玉窓寺
 赤坂氷川明神社 古呂放天神社 梅窓院 泰平親音堂 龜野權現社 八見親音堂 長谷長者墳墓
 淨土寺 專修寺 未根山 圓通寺 舊跡 玉窓寺
 今井古城址 梅窓院 泰平親音堂 龜野權現社 八見親音堂 長谷長者墳墓
 鳳岡寺 梅窓院 泰平親音堂 龜野權現社 八見親音堂 長谷長者墳墓
 海藏寺 梅窓院 泰平親音堂 龜野權現社 八見親音堂 長谷長者墳墓
 通明親 長谷寺 鶴ヶ谷 濃谷氷川明神社 室泉寺 朝霧ヶ瀧 金王麻呂影堂
 金王麻呂守佛親音 河邊宮重宅旧址 姉尾先景旧館地 富士見坂 富士見

寶香齋其角墓 二本樓覺心寺 法林寺 兼教寺 上乃寺 圓志寺
 美林院の圖 正覺院 瑞聖寺 鎌作親音堂 誕生八幡宮 富士見景肆 大鼓橋
 元二大師堂 白浪妙見堂 明王院 蟠龍寺 岩窟辨財天 安養院 寐釋迦堂
 蛸藥師堂 圓通不動堂 愛深の玉 太子堂 虛空苑堂 獨活の湯 觀音堂 觀音堂 觀音堂
 大島明神社 金毘羅持現社 子代々海 長泉律師 碑文谷法華寺
 八 秋天主 觀音堂 二王門 根木
 大平山 満願寺 廣澤先生之墓 龍泉寺 一本系 圓通寺 舊跡 玉窓寺
 赤坂氷川明神社 古呂放天神社 梅窓院 泰平親音堂 龜野權現社 八見親音堂 長谷長者墳墓
 淨土寺 專修寺 未根山 圓通寺 舊跡 玉窓寺
 今井古城址 梅窓院 泰平親音堂 龜野權現社 八見親音堂 長谷長者墳墓
 鳳岡寺 梅窓院 泰平親音堂 龜野權現社 八見親音堂 長谷長者墳墓
 海藏寺 梅窓院 泰平親音堂 龜野權現社 八見親音堂 長谷長者墳墓
 通明親 長谷寺 鶴ヶ谷 濃谷氷川明神社 室泉寺 朝霧ヶ瀧 金王麻呂影堂
 金王麻呂守佛親音 河邊宮重宅旧址 姉尾先景旧館地 富士見坂 富士見

通玄坂 同物見松
 土釜塚 足毛塚
 北澤淡島明神社 沈尻村祖師堂
 若宮八幡宮 田中毎々天祠
 常盤橋 豪徳禪寺
 吉良氏古城址 宮坂八幡宮
 弦巻郷 世田谷八幡宮
 氷川明神社 常刀先生義賢之墓
 古祥院 観音寺
 小見村除蝮蛇神社 滝若寺
 江戸遠江守喬佐地 泉龍寺
 稲毛重成墓 升形山
 長者穴 長森稲荷社 雲ヶ坂
 駒場野
 氷川明神社
 子明神社
 圓禪寺
 龍華山永安寺
 慶元寺
 天満宮
 去我苦塚
 馬牽沃喬跡
 常光寺
 實相院
 石井神社
 天神の森
 氷川明神社
 廣福寺
 版室山
 藥師堂

大師穴 六不捨現社
 稲毛藥師堂 日向石
 檜明神社 右近所
 登戸宿 同渡
 小杉新敷地 山王権現社
 田谷 牛頭天王社
 沙千親世音 忍系
 肉藤新宿 大宗寺
 一行院 古佛弥勒像
 遊女の松 仙杏院
 子談谷八幡宮 鈴懸松
 代太橋 高井戸
 布多天神社 虎拍神社
 妙樂寺七面山
 十三塚
 同神廟
 最明寺
 羽黒権現社
 鬼子母神堂
 篠寺
 天龍寺
 吾妻堤
 龍岩寺
 代々木野八幡宮
 鬼子母神堂
 徳園寺
 杉山明神社
 舟田
 大戸の神社
 浄源寺
 九子渡江
 戒行寺
 田谷大木戸
 敷河橋
 子談谷太神宮
 千駄谷觀音堂
 鞍懸松
 布多の里
 粕江入道田佐地

九

里の種

深大寺 元三大師堂
深大寺

新波田心城址

富士見塚

傾城うら松

八幡宮

府中驛舎十

武蔵野

分所明神社

是政村

三子人塚

小野神社舊址

孫名寺

青渭神社

深大寺城址

四分寺

小分寺村廣竈

武蔵野

八幡宮

分所明神社

是政村

三子人塚

小野神社舊址

孫名寺

青渭堤

福満堂子祠

仁王塚

古厩

阿弥陀友誼

武蔵野

八幡宮

分所明神社

是政村

三子人塚

小野神社舊址

高安禅寺

谷保天神社

荻原道長の古蹟地

日野津

訪社

平惟盛之墓

百景八幡宮

小山田旧址

番切坂

小澤小太郎居宅旧址

穴沢天神社

青沼明神社

弥勒寺

八幡宮

同福社

番匠谷

一本榎

城山

平臺

威光寺

向の岡

小沢城址

寿福禅寺

清水之場

安樂寺

高願寺

高幡金剛

別後

二王塚

横澤八郎墳墓

天守臺

明覚寺

國安明神祠

都筑の忌

展翼碑

沙間山

吐玉泉

法泉寺
兼師寺

日吉山王神社

永田馬場あり江戸第一の大社中を別當ハ

天台宗僧正の觀理院と号し神主ハ樹下氏なり其餘

社僧抄ハ社家巫女等數多あり河祭禮ハ隔年六月十五日

なりその行粧を初冬茅場町河旅所の条下ニ詳なり

本社祭神大宮比叡の二宮此叡大明神を勧請せ無誤ハ國幣立尊

二宮氣比宮を勧請せ聖觀世音菩薩を本地佛とせ三宮客入宮を勧請

冊子の中白山妙理権現なり十一面觀世音菩薩を本地佛とせ江戸名所記

古鱈口昔ハ本社の中王子宮本地ハ文珠大士なりとあり

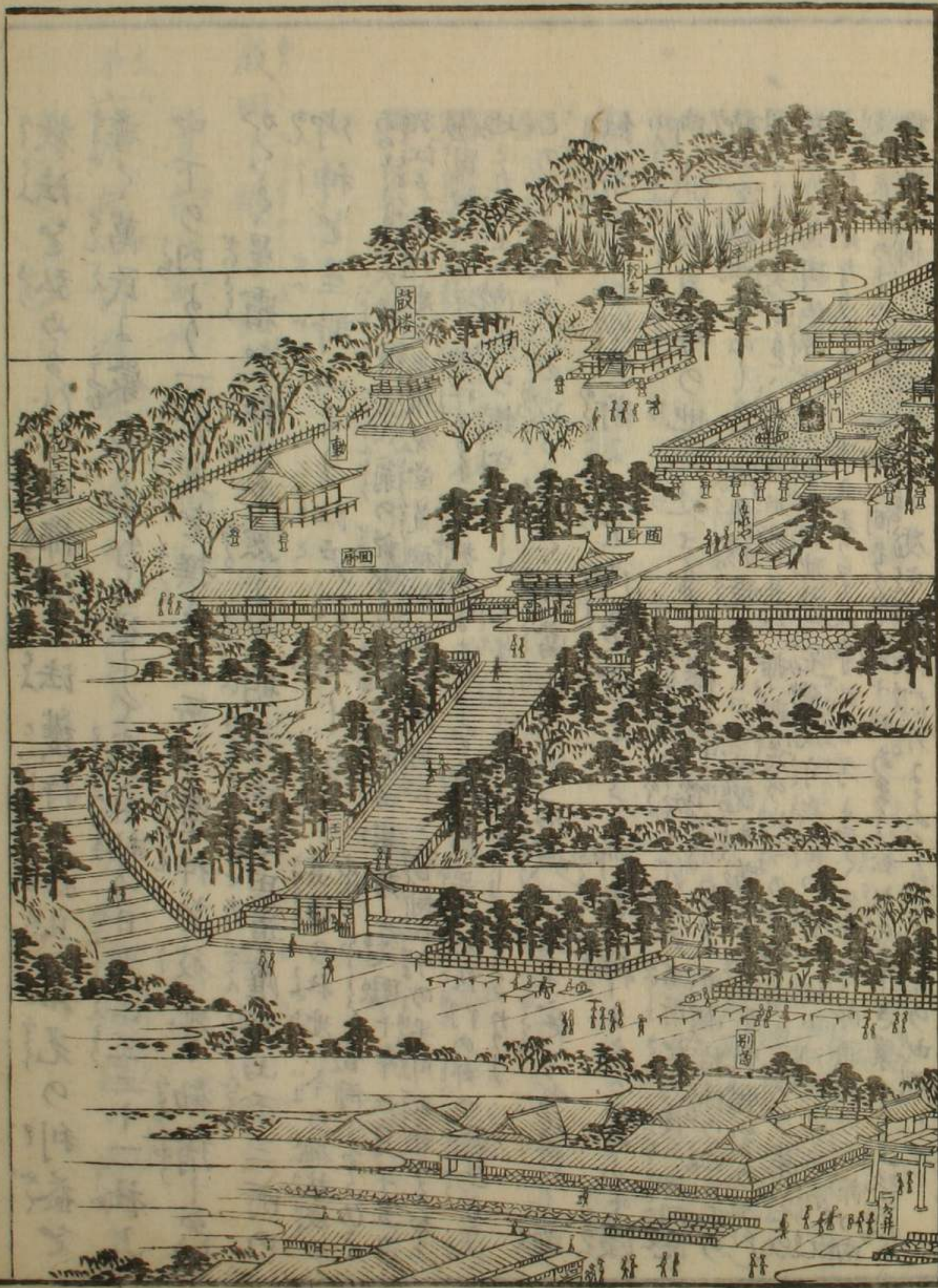
敬白奉納山王權現御寶前鱈口大檀那直景

願主南仙房 武州豊島郡江戸館天正十四年丙十月廿五日

大田大和山王宮江城の中あり一頭奉納せ鱈口なりと後稻荷

當社ハ淳和天皇の天長七年庚戌慈覺大師勅によりて武藏

國入間郡仙波小あり所の星野山無量寺を再興ありて圓頓の



取吉山王神社



教法を弘めし一頃佛法王法護持の爲且和光の利益を
普く萬民に蒙らしむと欲しく我立社の日吉山王二十一社上
中下の内より一社宛を撰く三所の靈神を彼地は勸請し
かゝる星霜を経ると然る文明年中太田道灌此山王三所の
御神を星野山より江戸に遷し其頃の社地は今の梅林坂の
ある江戸城内東山王権現堂荒神祠菅丞相祠菅祠ハ今の平川天神の御
於江戸初項延ハ兩社と御城内ありを菅祠ハ平川口庄門の外へ天正あり
也これ山王ハ御城の鎮守と御居城の地は定させし頃
この江戸を以て永く御當家御居城の地は定させし頃
紅葉山は地々新に社を御造営あり御産神はありぬ
御城西貝塚の地へ遷し其年歴詳は江戸名所記に後土御門院
御社を城西より其社を再興修造ありと云此説未考は道灌結縁の爲三所の
國なり其岡古涼山王宮の旧地ハ三宅備後守殿宅の裏の坂小祠あり此山
山王の旧地なりとあるは實は又事跡合考は云く伊井掃部頭殿の居館の南
後九未申の方の小坂の際神二箇あり長十間あり松杉の樹葉は城の内に
稻荷の小祠ある隙地是山王一度半蔵御門外より古蹟の由緒と云

又兼應三年甲午田禄の後溜池の築山勝地たるにあり
竟小台命の今この地へ遷座なり宮社御造営あり
より江府第一の宮居となし
名勝志云く明暦丁酉の歲田禄より
て兼應三年當社を貝塚より今の地へ
遷し身ありとあれ兼應ハ明暦より先の年号ありハ
此説證と云ふは或人云元治元年今の地より云く
畫棟朱簷ハ地は映せり名勝志云此地ハ元松平
主殿及康宅の地ありとあり
あつあつしあり已降
和光同塵の利益浅くは内中を圓宗の教法を守り外ありを
鎮國利民の徳を施しし殊更御當家の御産土神とて
御崇敬最厚く天下泰平國家安鎮の御祈禱永世急
るるなり

成田下總守長泰田地 永田馬場山王の隣丹羽家の地なりと
し古へ武州忍の城主なり
第六天祠 同所兼松家の地あり太田左金吾道灌の勸請あり
といひつゝ

平川天満宮 御城西麴町三丁目南平川町あり別當八天台

宗わく長松山龍眼寺と号け東叡山に屬せ

傳云當社の文明十年戊戌六月廿五日太田持資當國入間郡

川越三芳野の天神を江戸城に勧請し數株の梅を栽ると云

今御城内平川の梅林と唱ふる其梅林の跡なり新安子簡は文明中太田

道灌築くれり江戶城平河口の中菅神の社上棟の文は文明十年戊戌六月

廿五日と有之云其後天正十八年御入國の頃彼宮を平河口の外へ移さる

支山翁云江戸御入府の節平川より貝塚へ故は平河の天神と唱へざる

此故は今の麴町の地に到りては旧名を又其後慶長に至ると御本丸所造營

の頃竟は今の麴町を改めさせり大道寺支山翁云平河御門の

夫より今の麴町の方へ續き昔の甲州街道あり其平河町の内は藥師堂有

其別當天神の社を預り茶師堂のついでにせしむる麴町に公用の

地より麴町の辺へ引し刻天神の社を移すと又傳記は麴町より

茶師堂よりひふ八幡宮の社ありて天満宮の社地と定めりて文武両道

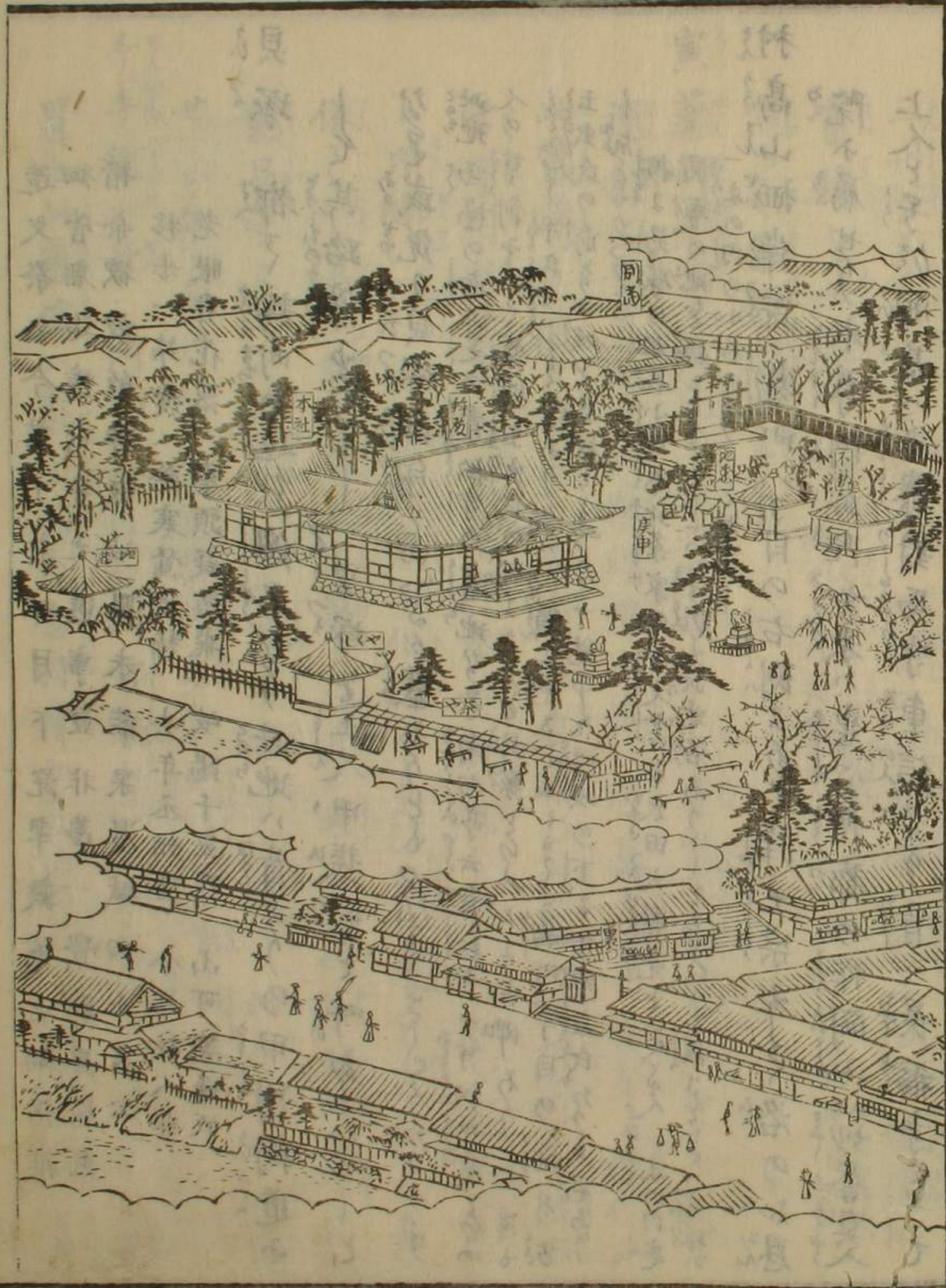
守らせりといふ云々寛政七年修營ありて神殿清新なり毎年二月廿五日營神

自画の神影をわけ諸人小拜とむ

梅花無盡蔵云余比寓武之江戸城々有丞相祠
堂裁柳挿松之晨寔數百株文明丙午仲春二十
有五適值上夫徑山也之所少也謹賦小詩題
亦不相之壁也故未及之傳衣迺渺茫之說而國史
北野春遠西府有松一箇此地亦拙君
夢中傳法定焉有松亦應云梅亦云

同書 問關遊江戶城管丞相祠
若令評花甚不州公相梅亦應編王者中
宋末江湖梅亦孤吟香文公大極屠
横斜月瘦一枝影分作文公大極屠

同書 身居關左而名晚步詩序者太田二十石灌公靜勝
是也公曾宴坐一室夢中見接管丞相其豈早
人卒然來獻丞相所親筆之畫像可謂靈夢也
建庶於江戶城之北畔寄錦十項之美田歲時鼓
焉培梅數百株之超於錦城之梅海也前年
丙午春共遊英也同秋之孟二公遊矣余
無愧社之著英也同秋之孟二公遊矣余



平川天満宮

造文祭之今茲丁未正月下浣率數輩之緇侶徘徊菅廬追憶前年之遊事豈非夢一覺邪感祭無措余欲鼓飯掉飯岐陽未能果漫賦四十言云

移步一筇瘦 餘寒鷺度稀 去年丞相席 今日故人非
老眼看花落 舉頭疑雪飛 岐陽千里外 山可笑遲飯

貝塚 都々鞠町の辺に總名なり此地ハ昔より甲州街道ハ

一々其路傍あり一里塚を土人甲斐塚と呼ぶるにせしむ

なり或説ハ貝塚法印といふ墓ありともいふもさうなり

此地馬場の南ハ芝の青松寺の舊地なり南向亭云青松寺ハ青松甲斐といふ

人の草創中ハ當時玉虫氏の邸ありと見え今ハ上ハ古碑あり年月ハ

玉虫氏の前なる坂と貝塚といふ一説ハ此坂の下ハ甲斐氏なる宅あり

村高山 柘岸院 鞠町ハ丁目の右側あり浄土宗あり洛の知恩

院ハ属せり本尊阿彌陀如来ハ惠心僧都の作閑山ハ妙譽真入

上人と号し開基ハ安藤對馬守重信なり昔ハ長福寺と号して

三州ありとて當寺ハ頼朝の念持佛と稱する聖觀音ハ

靈像と安置す 龍前ハ安置する觀音の像ハ 七月十日ハ千日泰と

唱々々泰指頗る多し

寅藥師如来 同北の横小路坂より上道の左側常仙寺といふ

禪刹ハ安置せり此藥師佛の像ハ行基大士の作なり相傳ハ

此靈像永祿の頃迄ハ參州鳳來寺の山麓ニ立せあり往古

當寺閑山祥若存吉禪師參州新城ニありとて凡俗といふ

一頃俗姓ハ安田 此靈像虎ニ化現しハ狼の難を遁れしハ

依るに後法恩の爲ニ出家し江戸ニ來りて四谷監町の明雲山

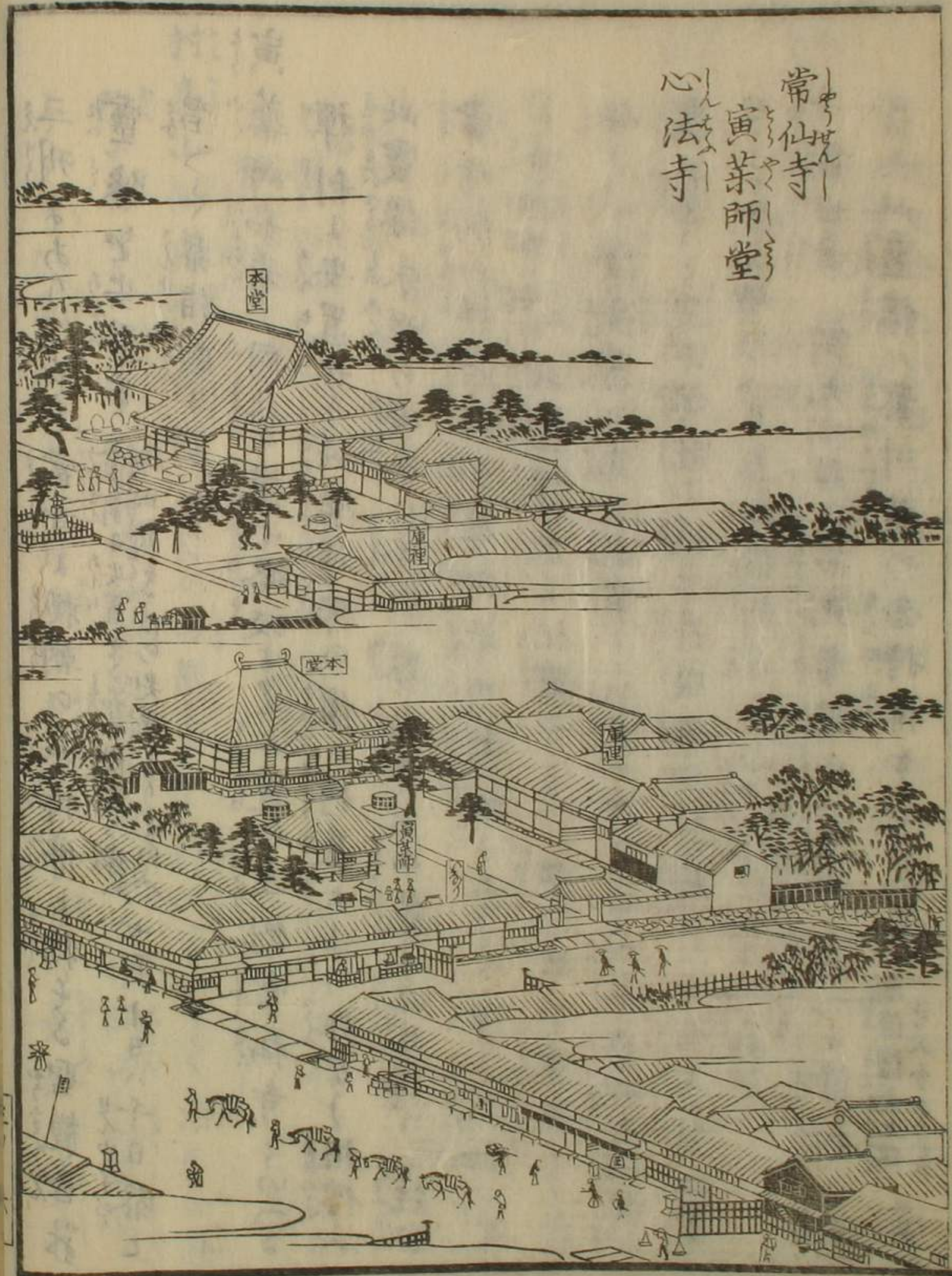
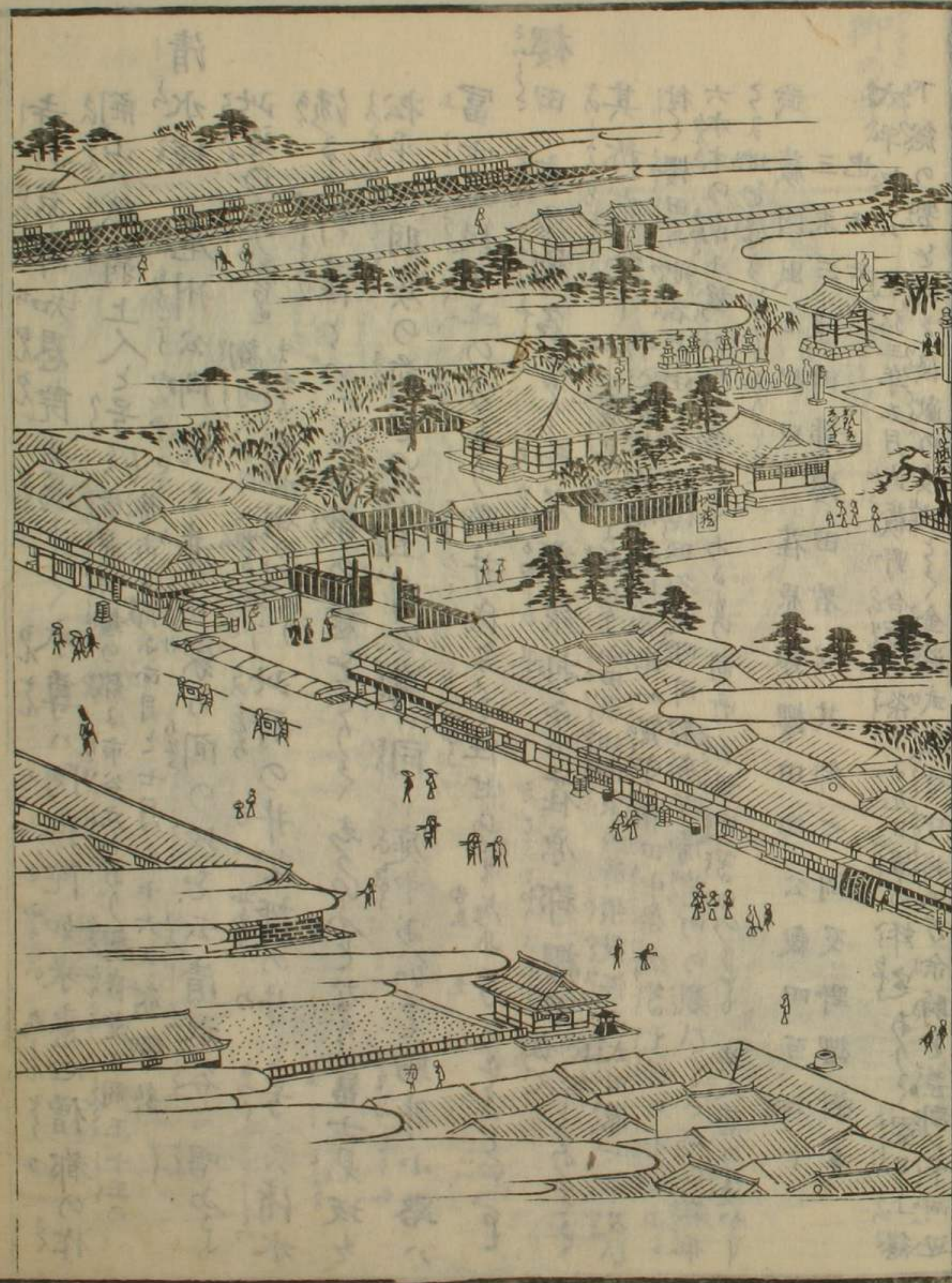
龍昌寺といふ禪林ニ住し其項當寺を闢く此本寺と安置

せしとあり毎月八日十二日泰指多し 此本寺ハ此小路と

子手觀世音 同九丁目の右側常栄山心法寺といふ浄刹ハ安

置此靈像ハ泰川勝の念持佛なりといふ 簡淨檀金立像 當

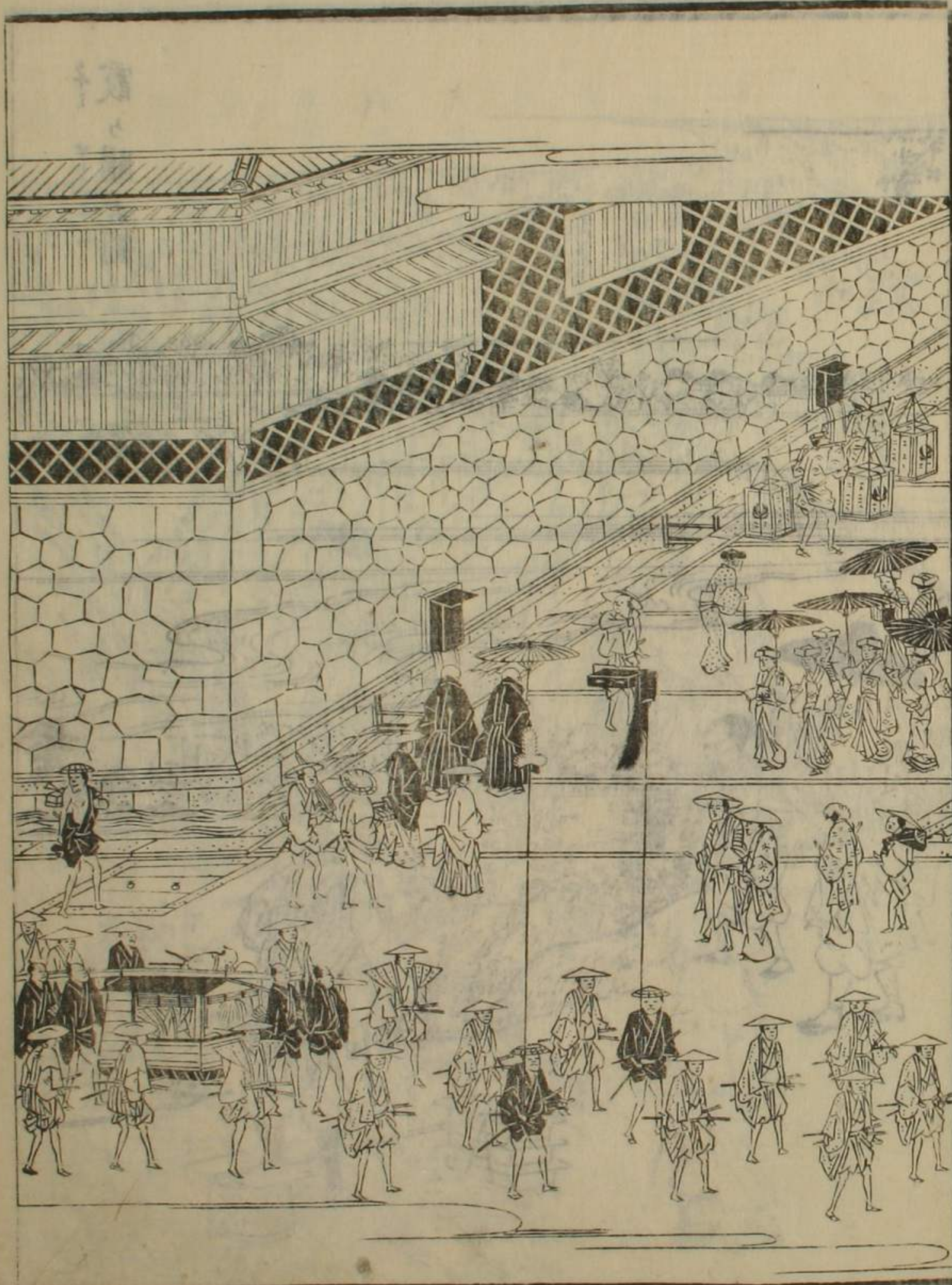
一寸八分あり云



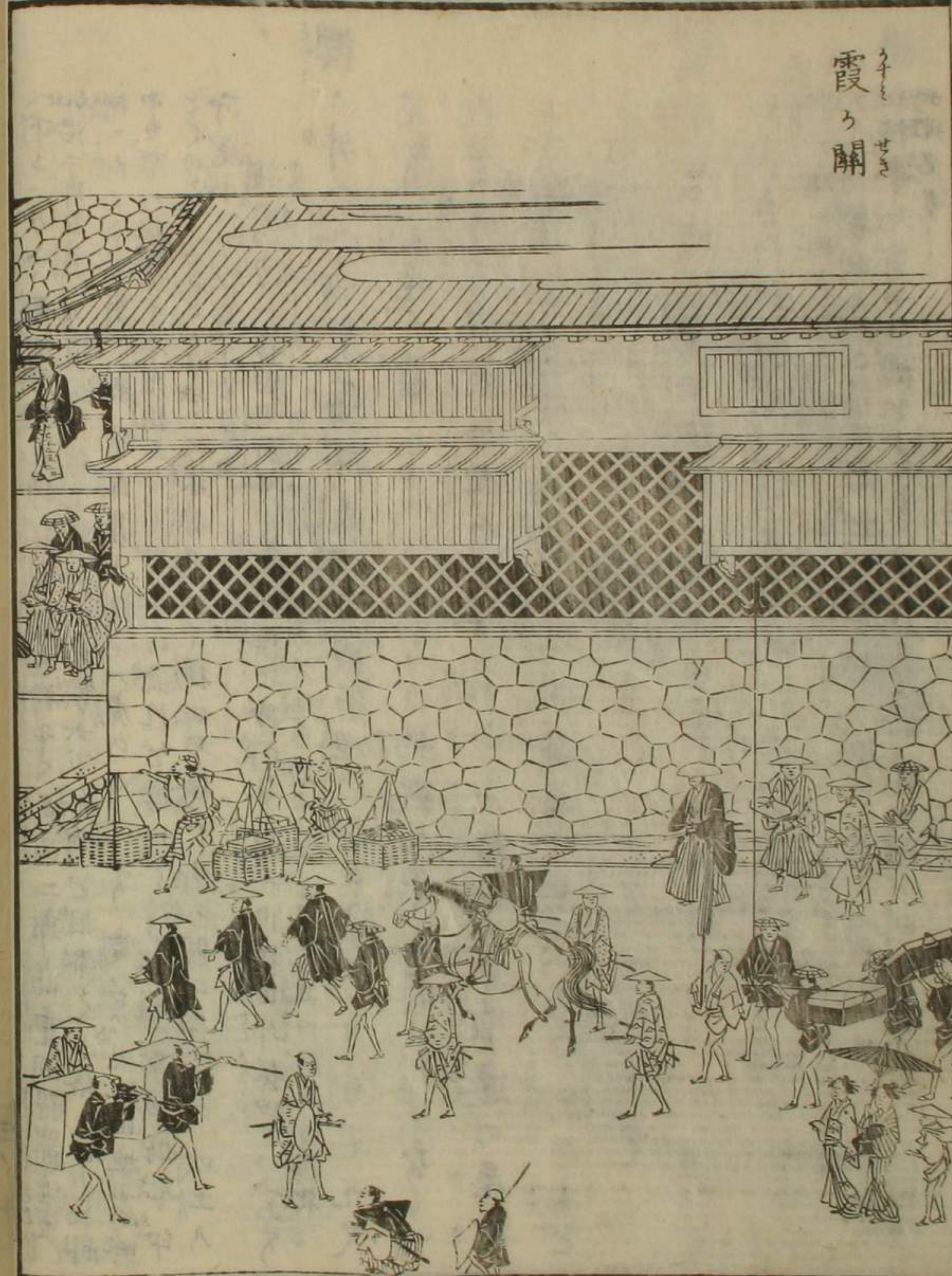
柳の井



寺ハ京師知恩院ニ属ス本尊ハ阿弥陀如来惠心僧都の作
 尾州公卿館と井伊家の間の坂を云清水谷と唱ふも
 清水坂 尾州公卿館と井伊家の間の坂を云清水谷と唱ふも
 此辺の柳蔭とつる古歌の意をとりてあつたなり富士見坂を
 流る柳蔭とつる古歌の意をとりてあつたなり富士見坂を
 松平出羽侯の前とつる玉川の滝ハ同一庭中ありを駒井小路ハ
 富士見坂の上の方あり駒井氏ニ住せり其号とせるといふ
 櫻田 古の郷名なり和名類聚抄中荏原郡櫻田佐久
 其称尤久今ハ豊島郡ニ属せり小田原北条家の所領役帳ハ太田源七郎及ハ
 往々櫻田の地名と注し加ハ櫻田久保町同兼務町備前町の類ハ今ハ
 六本木の南ハ櫻田町と唱ふるの同所百姓町等ハ今ハ津入國の後カ
 武蔵國風土記曰 荏原郡櫻田郷公穀四百六十
 三東三字田號櫻田者以其郷之岡及野櫻樹多
 也云云
 太平記云 元弘三年五月武蔵野合戦の条下ニ九日軍の絆をわりて翌日上總
 下総の勢と討て後敵の後攻とて金澤武蔵守守將五万余騎と差副て下河辺



霞
う
關





霞
う
關
古
圖



溜池白山祠



武蔵野地名考云或古記曰 荏原郡霞關日本武
尊蝦夷之儲關也尔来連綿大被置之舉國之勝
景而然其遠眺隔雲霞故有霞關之號云云

續千載

地行くたてたあまのついでに昇りてのちをのちをたはひて

為世

同

いれりまのるるに昇りてのちをのちをたはひて

宣子

新拾遺

注千一をどのことありあつてのちのちをたはひて

仙洞

新明題

扉の戸ふきくもそとに昇りてのちをのちをたはひて

龜山院

夫木

立とちのちのちをたはひてのちをのちをたはひて

慈鎮

同

あつてのちのちをたはひてのちをのちをたはひて

為守

同

いれりまのるるに昇りてのちをのちをたはひて

光随

同

いれりまのるるに昇りてのちをのちをたはひて

為氏

同

いれりまのるるに昇りてのちをのちをたはひて

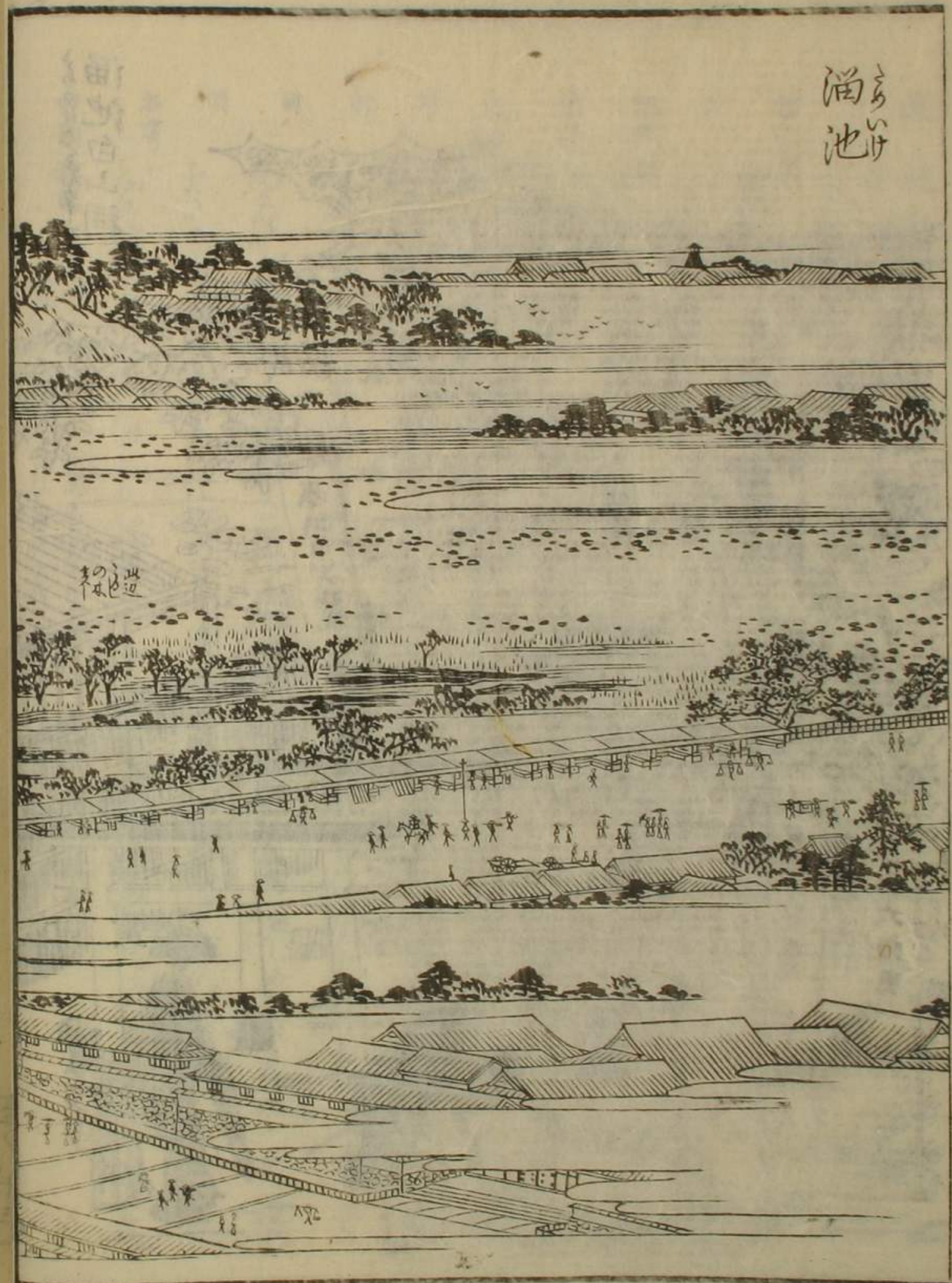
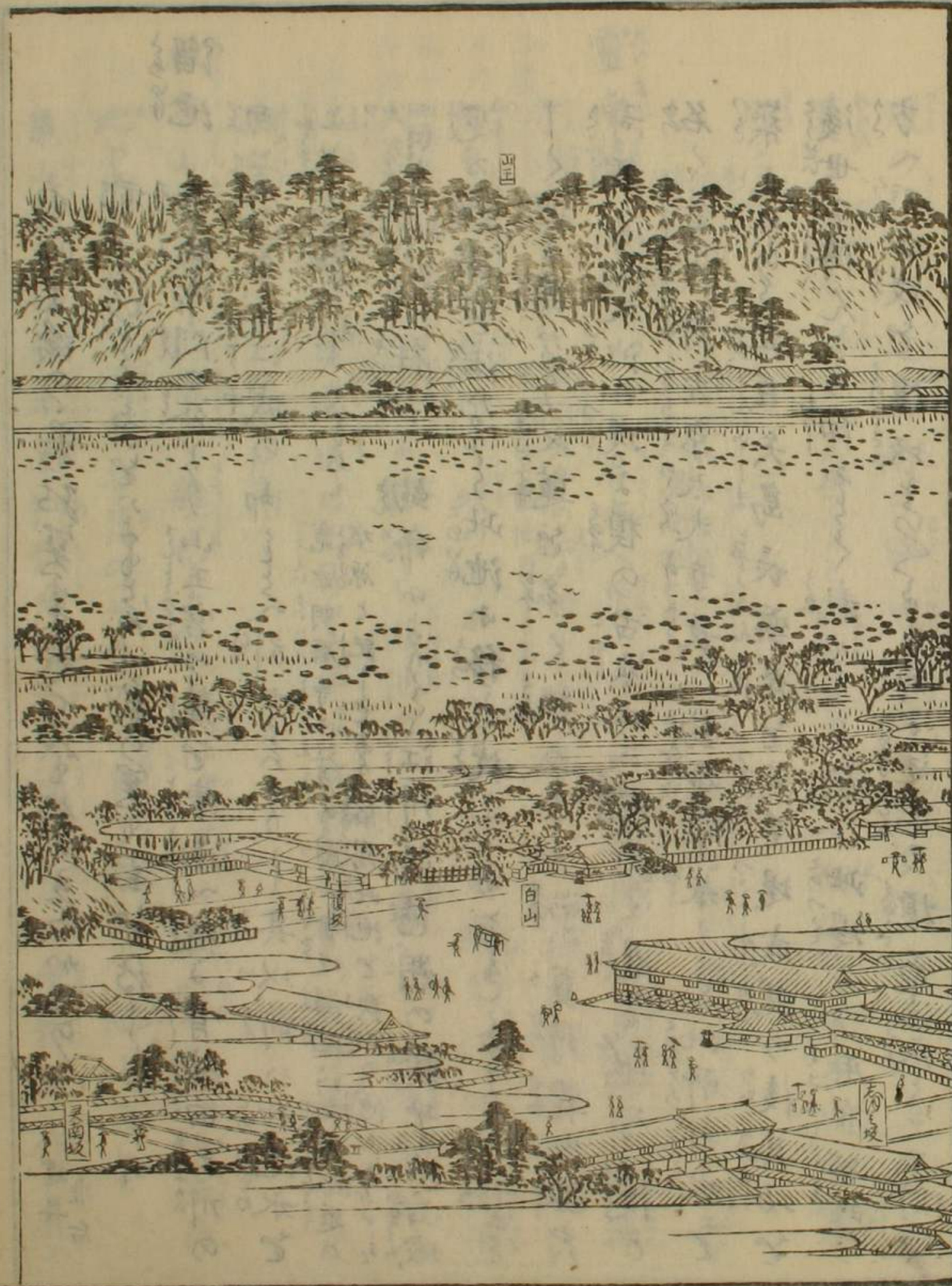
頭氏

名寄

いれりまのるるに昇りてのちをのちをたはひて

田國雜記

いれりまのるるに昇りてのちをのちをたはひて



あつまは路の爲に築かざりて我も故不まかへん 道典 准后

都のよきをくゑをよよめ一島の実も表を待つらん 同

溜池 赤坂御門の外より山王宮の麓を東南へ繞る昔神田玉川の

兩上水のまゝ江城の御まゝ引せぬをさり其以前ハ此池水を

上水と用ひたりとあり 寛永明曆等の江戸の圖に赤坂溜池に江戸水道の

大なる誤なり 往古 釣命より江州琵琶湖の鮒の山城

淀の鯉等を活なせり此池に移し故をめぐりたりと云ふ事

しく他は異なり又蓮を多く植へし一故ハ夏月花の盛火

奇觀と云ふ又池の堤は榎の古木二三株あり是を印乃榎と

名く昔浅野左京大夫幸長 釣命を奉る此所の水を

築止めり其臣矢島長雲是を司り堤成就の後其功を

後世に傳へり印をかく裁くとなり此堤より麻布谷町の

方へ下る坂を榎坂といふ前は述兩の榎ありたゞ又同兩

坂と号く

堤の北の方辻番所の脇堰の傍は葵を植へる地あり土俗

葵の岡と号く 此の葵を植へる地あり土俗

按は小田原北条家の古文書太田新八郎所領は江戸櫻田池分り地名を

霊南坂 溜池の上より麻布へ登る坂をいひ慶長の頃高輪の東禪

寺此地にあり 寛永九年の江戸圖より 彼寺の開山を靈南和尚と

稱せ道光を慕ひく坂の号は多し 潮見坂ハ同所松平

大和侯の表門前より傍を溜池の上より東へ下る坂をいひ

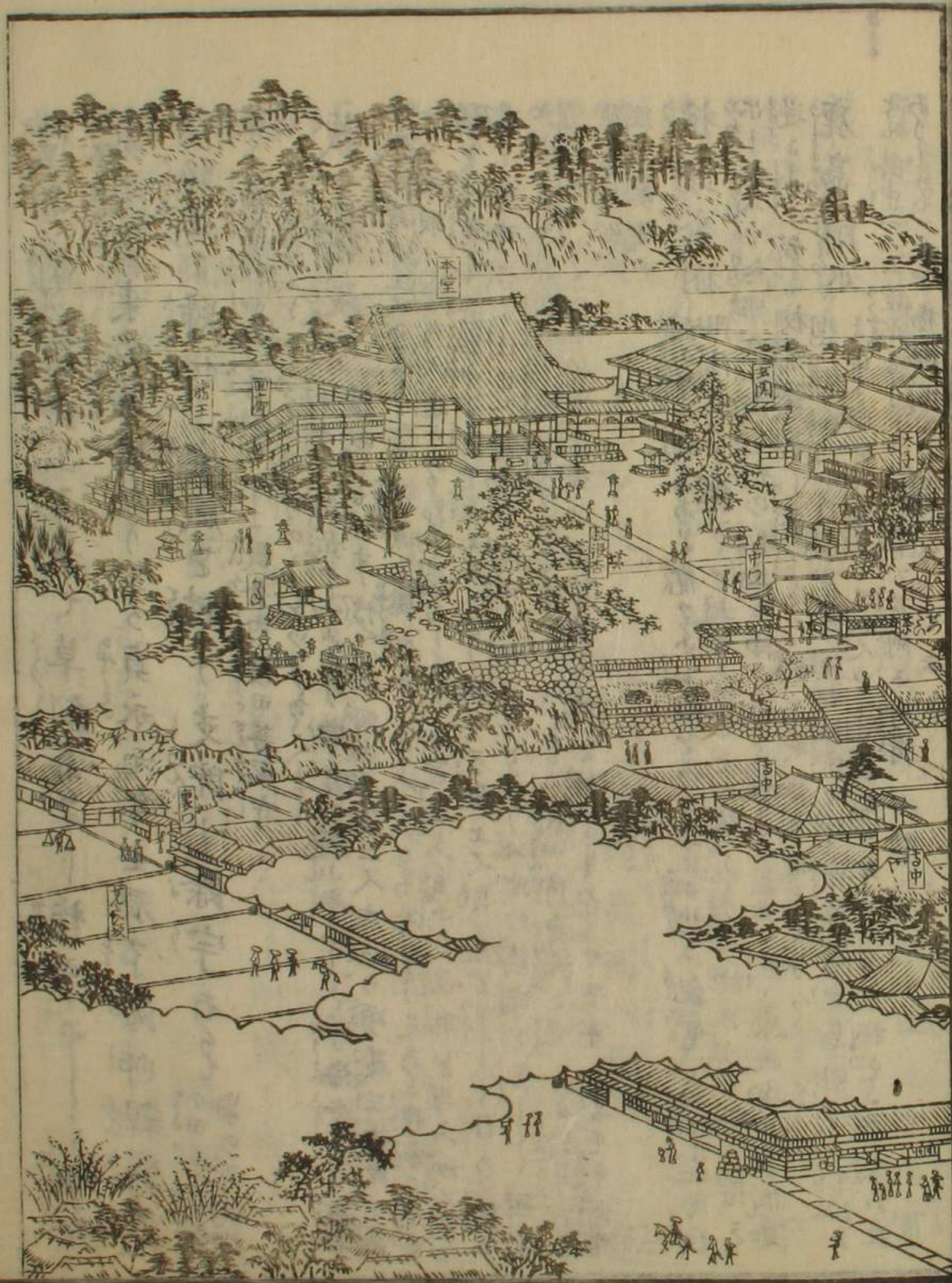
江戸見坂ハ靈南坂の上より土岐牧野兩家の北の股を曲りて

西窪の方へ下る坂なり

麻布山善福寺 麻布雜色よりあり 昔ハ龜子山と 親鸞上人弘法乃

地中々當宗關東七箇の大寺の一員了海上人開山たり

龜山帝の勅願本尊阿彌陀如来の像ハ惠心僧都の作なり



あさふ
麻布
善福寺

丙寅春過龜子山
善福寺櫻花下吟
獨憐不語無知己
偏向春風索咲多
怎奈遊人凭注目
也應拍手自相歌
心越禪師

往古ハ南紀の野山は象て草創ありて梵宇中々初を
真言密乘の勝區たりて貞永元年壬辰了海師親鸞上人

の弘法は歸化し宗風を承け支院十餘宇ありて

藏王権現堂本堂の南岳の上あり當寺の開山堂中々了海堂は麻布
権現とも稱す皆へり開山了海上人在世の頃藏王権現老翁
の形は現し上人のまゝ法義を聴聞し

杖銀杏樹開山堂の前あり石垣をめぐりて相傳へ親鸞上人了海師に
附法ありて去るの暇その携う杖を地指す
逆して云く念佛の法九夫の往生もゆかぬの杖と云く然る小此樹忽ち根新
鹿島清水惣門と阿加井あり又主人の鹿島の地は七井と稱す靈泉あり
とも其中一ツハ空ありとも唱へ

寺記云中興閑山了海上人ハ鳥羽院の苗裔左大臣藤原信實
公の息男なり信實公故ありて當國に放れ品川の近邑にあり

請しひひれハ其室白布を吞と夢見く懐妊し建仁元年辛酉
林鐘十五日一男子を誕生せし其時後園松樹の下に忽

然とて清泉涌出せり此故了海上人の幼名を松君と号け理の名を大井と
唱へり大井私福寺の系下は詳なり

依人皆奇異とす此兒七歳の春父告く出離の志ありて頭ハ

せり故に實相寺の範賢律師に授け鬚髮を剃除し了海と号く

一書に巖山に登り静養僧都ハ是より後數学窓を身委諸宗を濟せ

竟に古郷に歸り本願弘興の基趾を求めんと則藏王権現の

叢祠に詣り是を祈り靈瑞よりて此地に至ると一精舎あり

今善福寺の教ありてを知らずと止住一年を歴り然る貞永

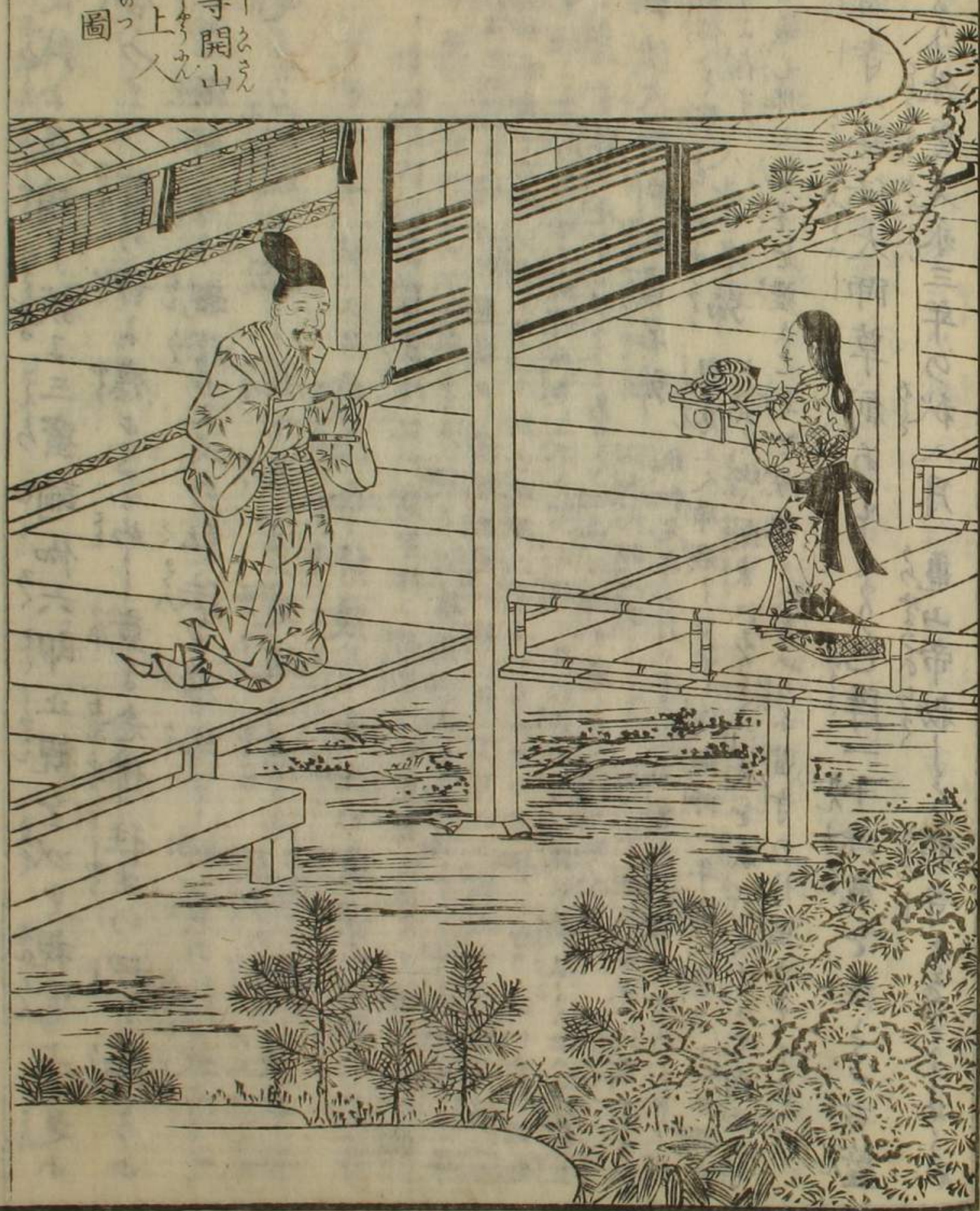
元年壬辰親鸞上人東國経回の時適當寺に入らば海師其

の善福寺の教ありてを知らずと止住一年を歴り然る貞永

元年壬辰親鸞上人東國経回の時適當寺に入らば海師其

の善福寺の教ありてを知らずと止住一年を歴り然る貞永

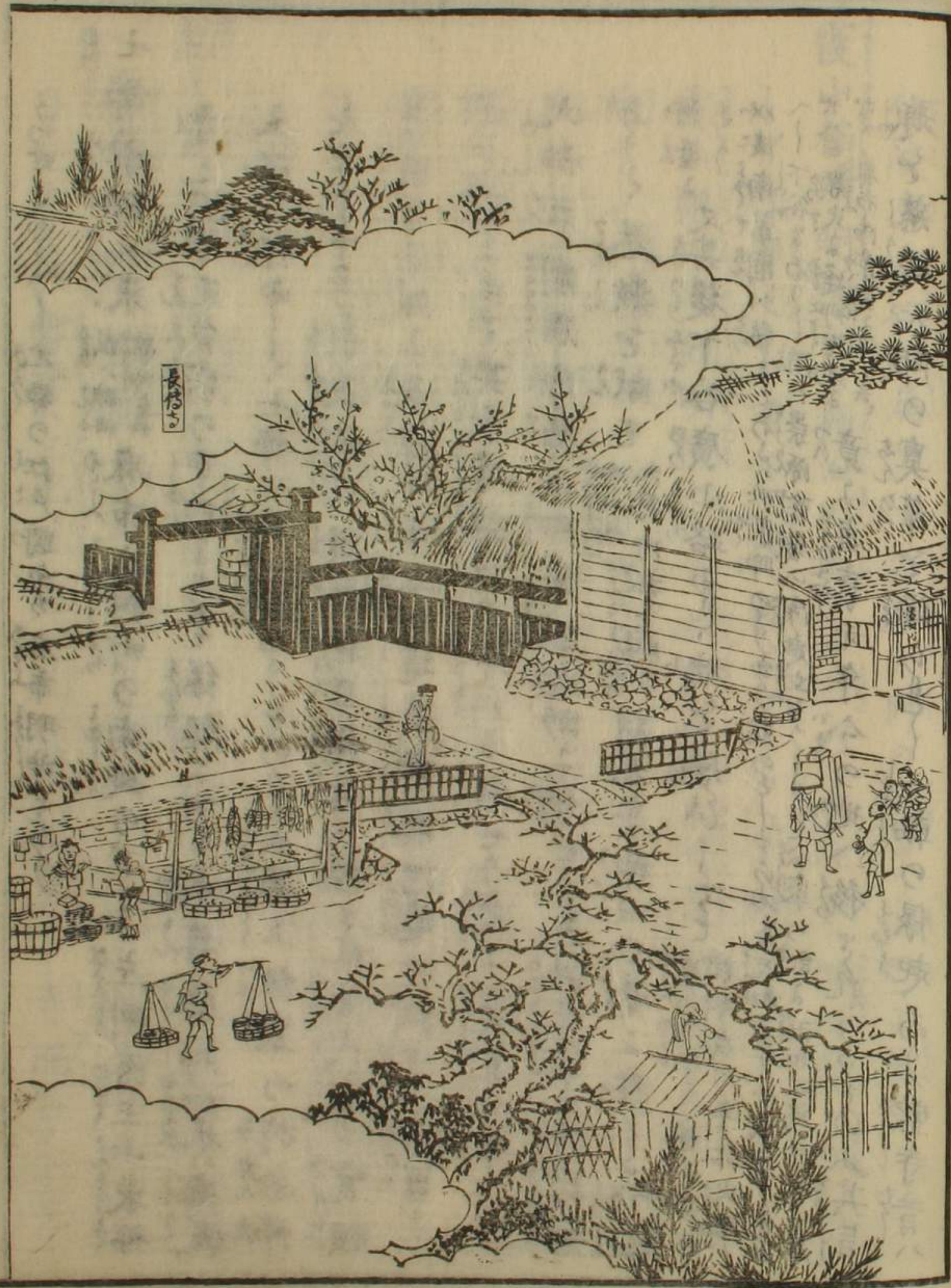
善福寺開山
了海上人
誕生圖



夜試は屈請一談は三蜜論伽六即止觀を以て親寫上人是の
答ふも響の音に應もるゆゑ一竟は念佛往生の理を論まふ
至る海師直は親寫上人の弘法は帰降一師資の約嚴ゆて
是より宗風と稱し化を布り遠近は普一直第六老僧の趣一と稱せ後永仁
二年甲午十一月六日前念命終後念即生の素懐と遂らるる
以上寺記及び二十四輩靈場記の意を採る佛光寺の實録云く了海上人の元應二
年庚申正月廿八日八十二歳中一寂す武蔵國阿佐布善福寺と号し延應元年
誕生廿四歳の時祖師圓寂云傳燈系圖元應二年十一月六日寂又大谷遠跡録云
高祖滅後十六年弘安元年四十歳の項興正寺に入第四世の寺務となり永仁五年願念
警海は寺務を譲り武州麻布に下る元應二年の春正月化録の薪及く廿八日即生
後念の素懐を遂らるるゆゑ一寂の時世違へる可老の
弘法大師刷毛書名號弘法大師入道一前年の再ひ當寺に來り
種傳は當寺の御書親寫上人帰洛あり後海師一年都へ登り上人の諱を
寺に存す八字名號上人云く故ハ關東にあり門徒を教化せしと南無不可
思議光佛と翰墨を灌く是と海師はたまふ當寺の什宝とすとのり
當寺ハ弘法大師草創ありより已降一千餘歳を經る古藍
なり殊更文永三年の秋八月 龜山帝勅し願寺とありしゆれ

薦紳一貞誥聖及び俸田を賜ふ境内は古墳多く最古跡あり
明け今一向專修の宗風盛ゆく化導遠近は普一
一本松 同所北の裏通り一本松町道の傍にあり一株の松は注連を
懸其下小垣を廻らせり里諺に云く六孫王経基此地を過る頃此
松は衣冠を懸あひとて冠松の名ありとも其餘をゆくの説あれとも
分明ありす今此辺を一本松と号し地名とあり或云小野
篁の植る所ありとも

水川明神社 同通り南の方上野町道より左側あり麻布の惣鎮
守ゆ祭礼ハ八月十七日あり相傳ふ文明年間太田道灌當國
一宮水川明神社勸請する所ゆ旧地ハ同所宮村の切通坂に
ありしゆ別當ハ真言宗ゆ徳乘寺と号す古者云昔の二鳥井ハ
三の鳥井ハ今所滑鳥井坂の地ありしゆ其旧地今八象山の住持退隱の地とあれり
露白和尚實文二年の九月をゆ此地は隱栖ありしゆ其廢今の跡ハ社と



麻布一本松



うつけいあり元禄の江戸図に麻布明神とあり

七佛薬師如来或ハ神田麻布本村町の南坂の下り口左側医王山東福

寺とて天台宗の寺内はあり縁起は云く本尊薬師如来傳教

大師の作中七佛の其一員ありその六孫王経基の持念佛

たりしゆあり永業年間頼義朝臣鎌倉へ移され後代々の官領

崇敬あり然は長祿の頃太田道真當國河越の城中安置し

又文明に至り其子道灌江戸平川に移せり然は慶長五年

大神君關原沙陣の初慈眼大師を命せし此本多市行念

ありく巻敷を献せ今此例同九年神田の臺に移さる其旧地

河臺又其後下谷廣小路ゆき地を賜ひしと紫の一本は廣小路の

以後南茶園へ移るとあり此茶師のゆかり成るといふ天和二年壬戌の事

へ下谷八日遷火は達神用地崇源院殿の序建立ありしと公家の記は天和二戌年十二月

趣と慈眼大師の真筆と深らし一軸の縁起あり當寺昔ハ

仙波喜多院に属せり慈眼大師の時より上野に属せり

霞山稻荷明神祠 櫻田町道より右より往古ハ櫻田霞関あり

いと所廓定より頃今の地へ移さるるといふ別當ハ天台宗あり

霞山櫻田寺觀明院と号く本尊陀拏尼天像ハ足利義國の守

神中て行基大士の作秩父重康安置せりと云相傳ハ當社ハ渋谷

莊司重國勸清一文明中道灌再興せり又往古右大将頼朝卿

櫻田村あり美田五百七十石と寄附あり供田の印ハ櫻樹を植

要害を構く江戸太郎重長をて往来を改む其後遙小年

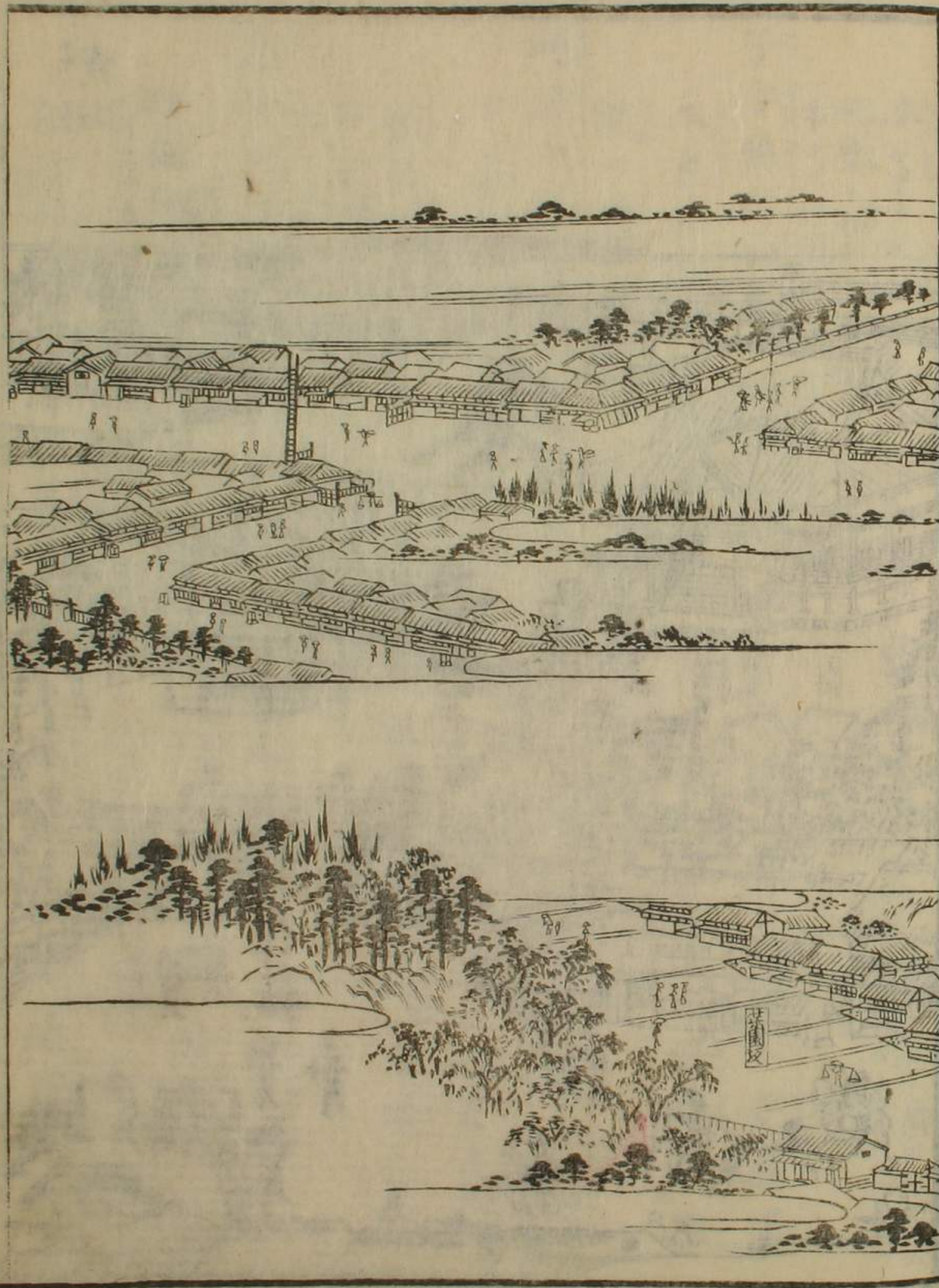
月を歴く此地と共に社を麻布へ移されたり今麻布櫻田町百姓町杯

町今麻布櫻田町百姓町杯

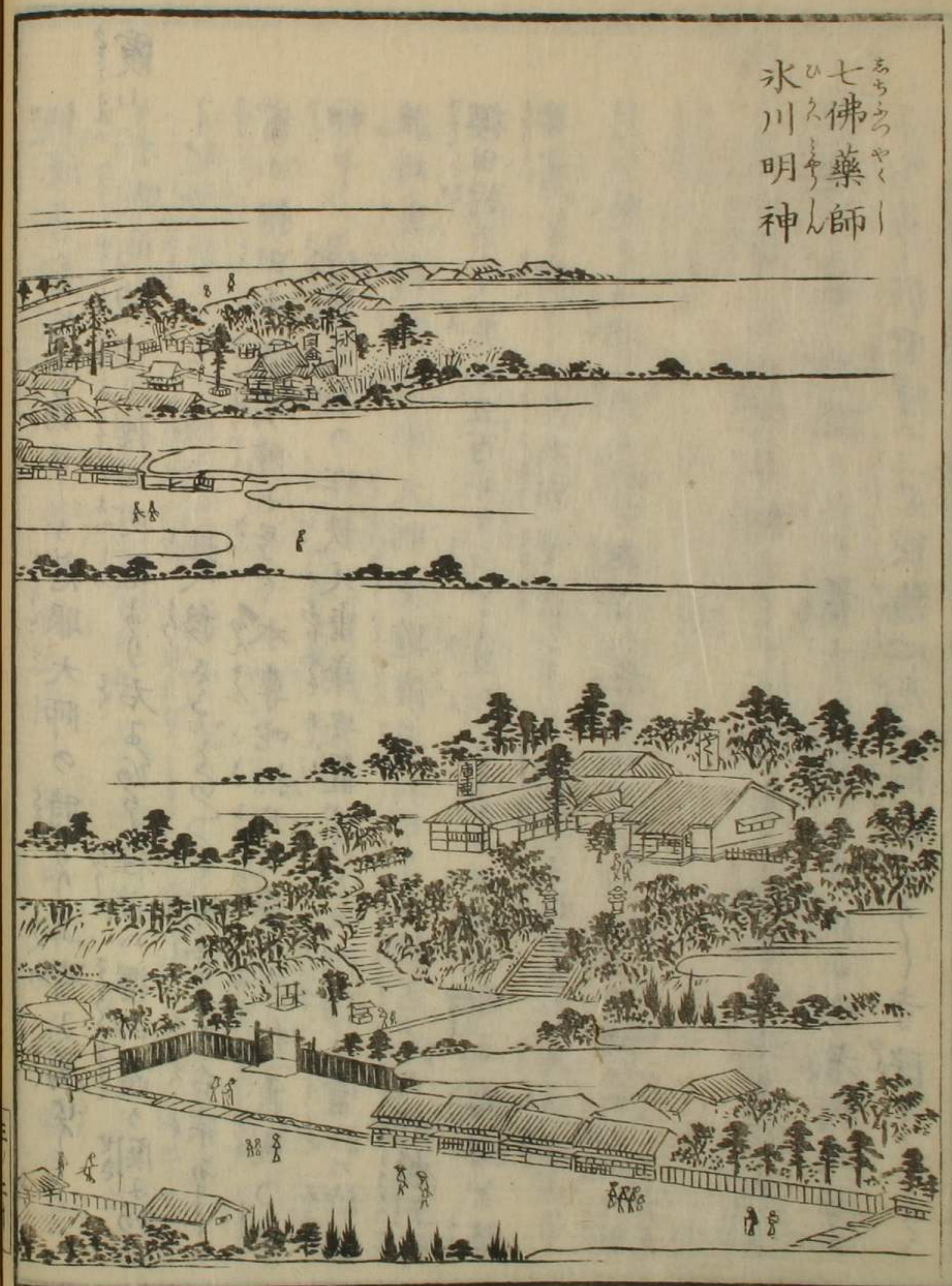
朝日觀世音 同向側專稱寺とて浄家の精舎に安置本尊

觀音の像ハ長者丸の叢より出現あり故小作者何人なる

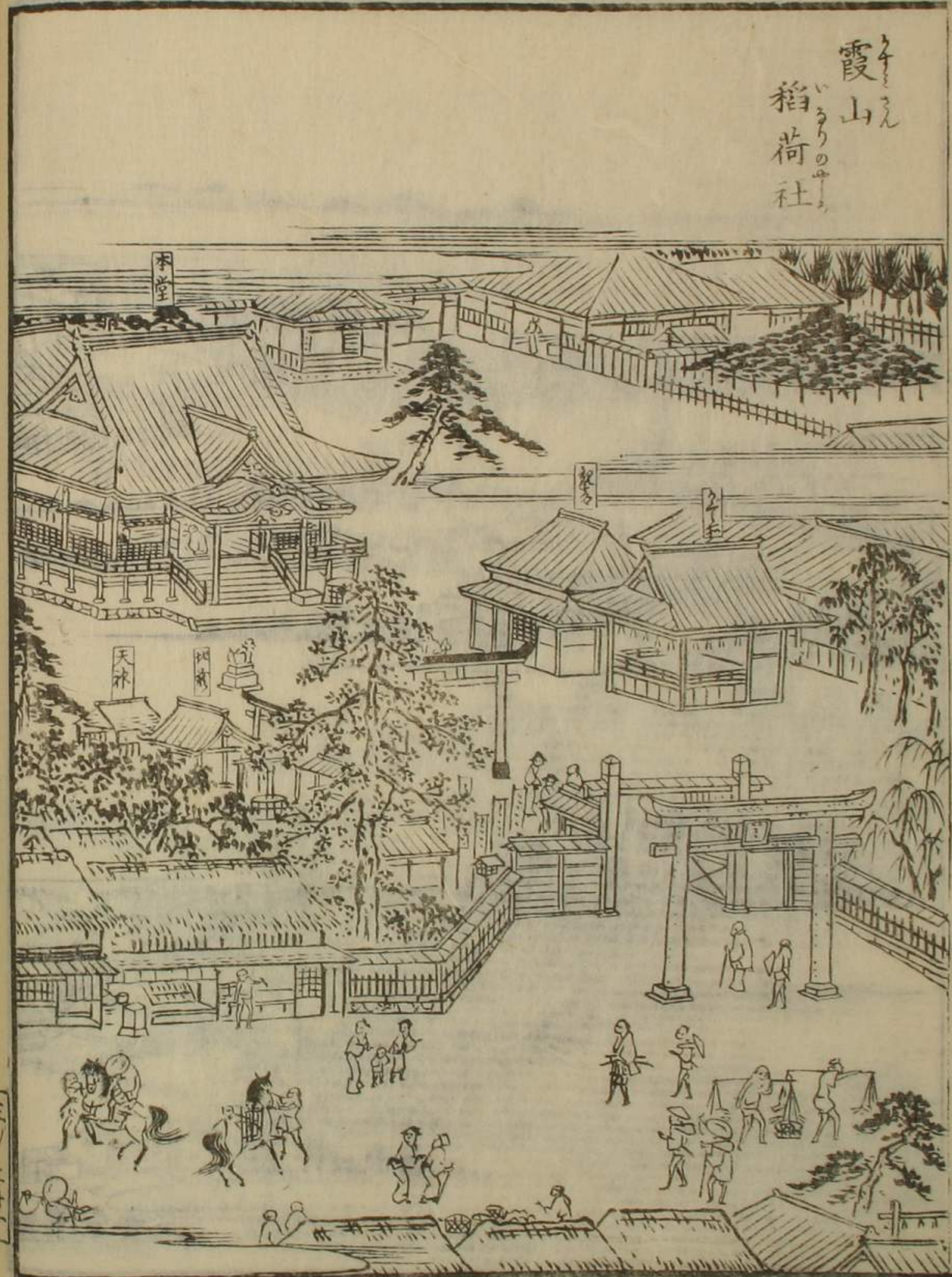
るを志す當寺ハ三光院清心尼の開創あり寺院あり



あちやく
七佛薬師
ひん
氷川明神



霞山
稻荷社



本尊も又此尼の信ありて靈佛ありとてま
清心尼ハ徹田信長公の侍女也

子安藥師如來 同南ノ並ハ真言宗正光院とて安安置す

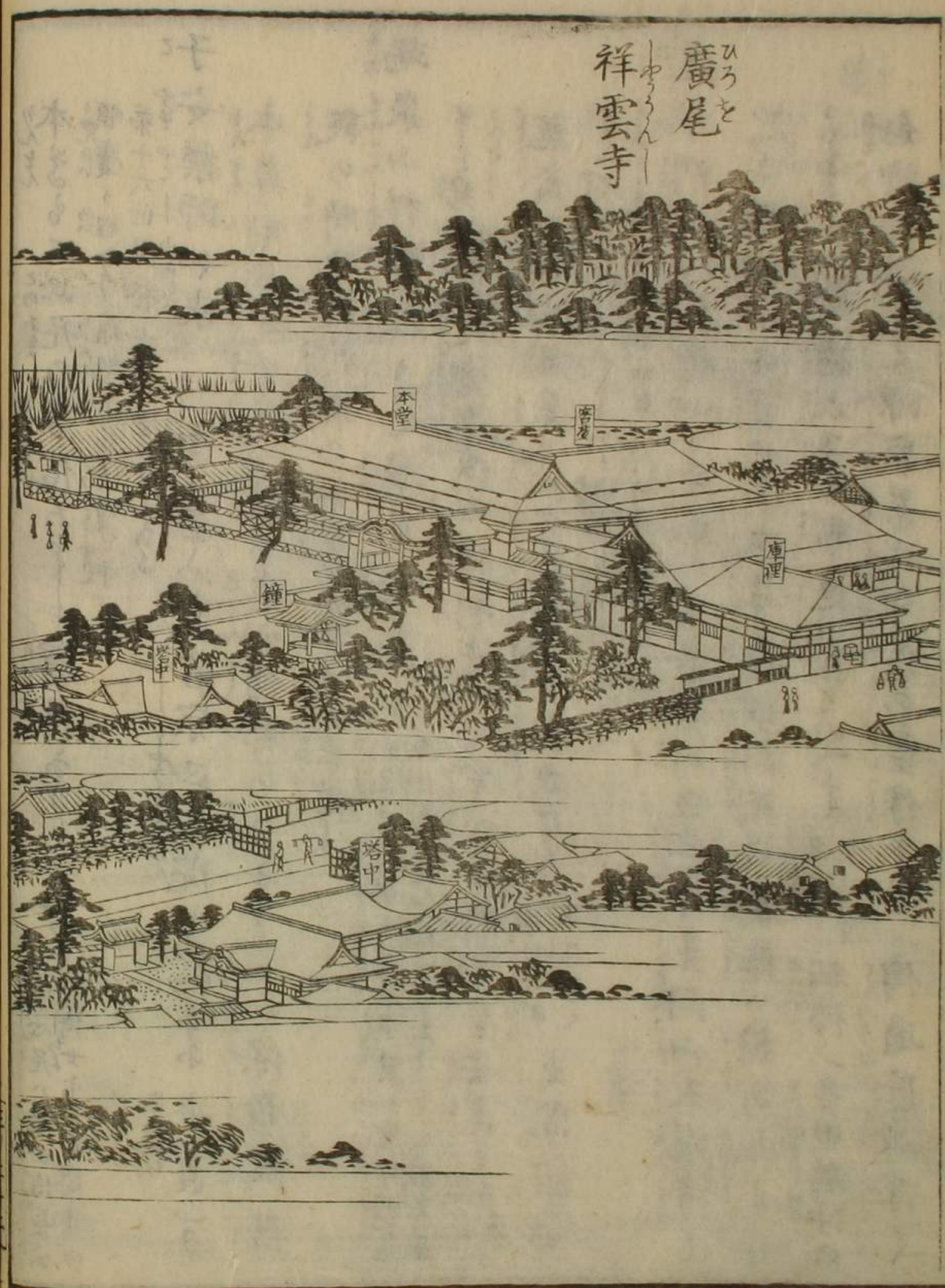
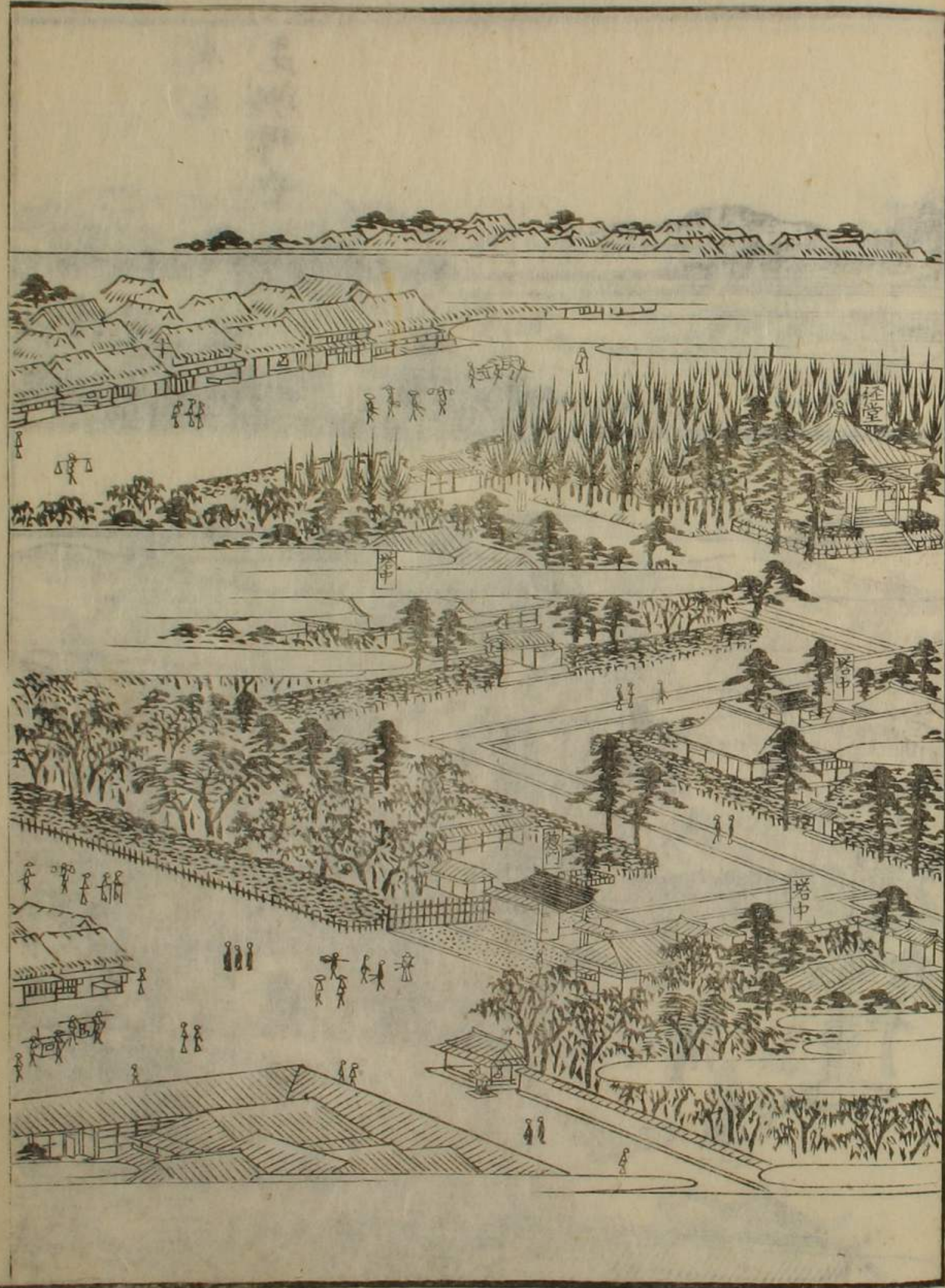
本尊瑠璃光如來の像ハ惠心僧都の作也一條帝御降

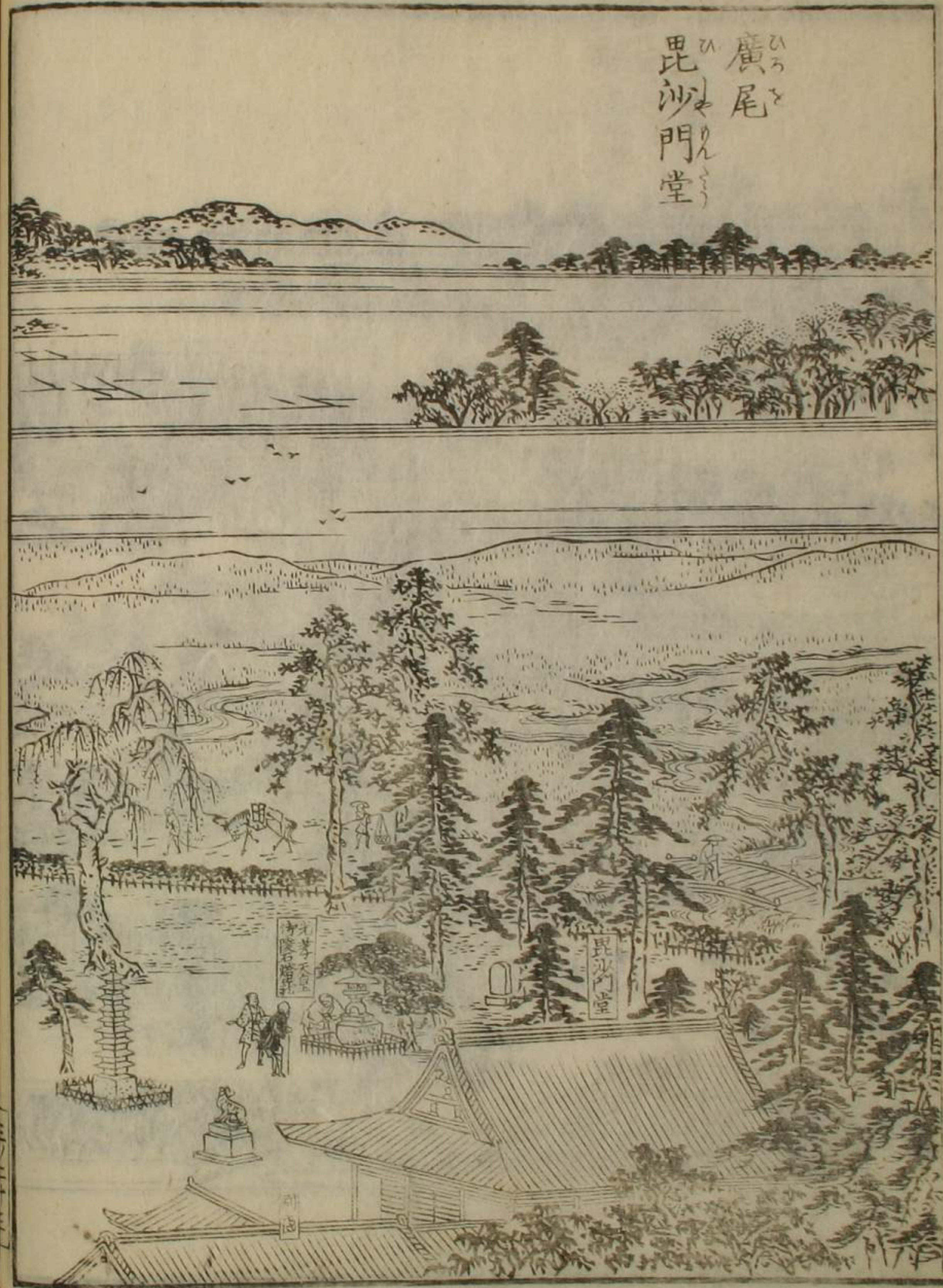
瑞泉山祥雲禪寺 廣尾町北条家正領役帳ニ奥津加賀守櫻田の内平尾の地を領すとあり釋釋を安置を閑山ハ

龍岳大和尚閑基ハ松平筑前守長政其法号ニ支院八宇其法号ニ

毘沙門天 同所四斗巽の方其丈三濱谷川の北岸多門山天現寺と

念持佛中々其丈三聖徳太子の彫造ありとて相傳傳通院殿深く





久信の家久信の家に傳へ又祥雲寺に収め竟に當寺を開創し始てこふ
安置せり文庫中より當寺の什宝あり

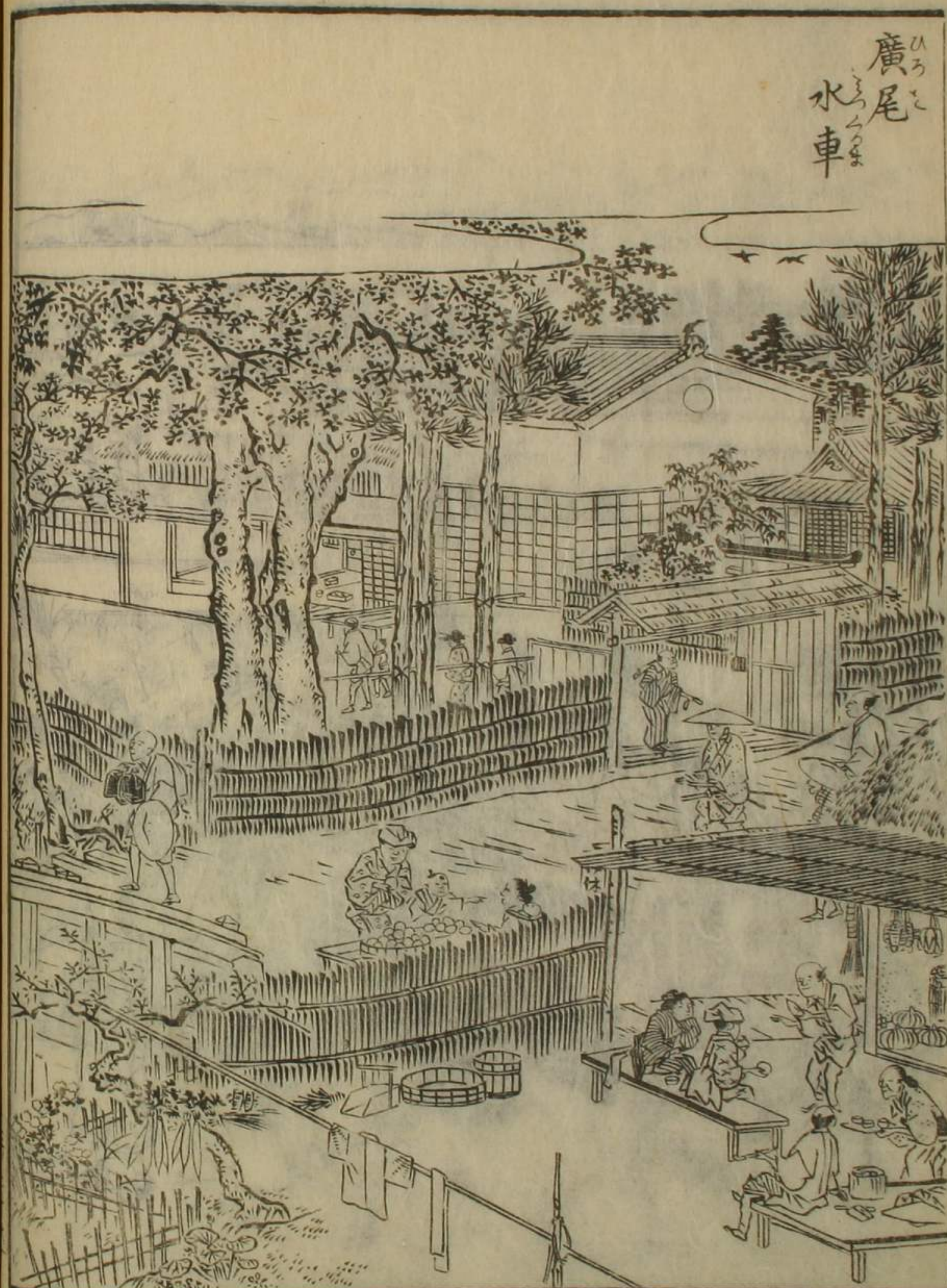
謂信西見德超尚東大仲手也時東有四此毘綠州王武
非從川神也類存照師公自故十照一埵王沙起豐島郡城南麻布邑多聞山下天現禪寺毘沙門天
人誠現人唐撥矣大書所作因二君尊像于精之北方天而從五位下守大現禪寺毘沙門天
力同僧百寶年且西金府之安撫海而者乃此像也筆痕今
之矣相天負且見金鼠咬所歎臨危而誦仁咸通語
所及君傳者皆此靈所成也倭漢之基奉
也傳長久臣安部大藏信春奉
殿久之業而開太平信春奉
後近臣安部大藏信春奉
可

命預香華供養之事信春亦以寅歲奉護之也嫡子
彌市郎信包寅歲而愈仰不勉也信官命無
大坂城之初鎮坐其城內也歷年之後官任攝
及此像吏故於江府品私第地孫信任丹波
州刺史尚猶傳益有過九旬壹岐守信傳之尚
刺史尚猶傳益有過九旬壹岐守信傳之尚
矣平生通志于祥雲寺怡和甚厚也信傳見
遷座之靈且夢有俗家不堪久使告怡和甚厚也信傳見
有靈夢且夢有俗家不堪久使告怡和甚厚也信傳見
內法子良堂和尚感其像懼也怡和甚厚也信傳見
寺安此像于一堂祈其像驗之任其志移之現
不能默止云爾堂以祈其像驗之任其志移之現
毘沙門天王緣起終

光孝天皇御陵石燈籠毘沙門堂の前左の方あり影石の燈籠中より甚
古雅あり其の項あり久金森家より寄附ありと云ふ
土筆原 波谷川の南の原を志る名く海に此辺を豊澤の里と

呼へり上中下よりきく波谷の地は属せり
警森神明宮 同所相模殿橋より南の方田島町の右あり列
當八天台宗中々報恩寺兼帯に祭礼ハ五月廿八日なり相傳ゆ
後冷泉院の御宇頼義朝臣東征凱奇の時白旗を収め祀るゆ





氷川明神社 同所南の方三鈷坂の下東の通り右側より白銀の

鎮守中々祭礼ハ九月十九日なり傳へ云日本武尊當國一宮氷川の

御神と遥拜一ハ一日跡なりとて

雷電宮 同社地北に相傳はる白河院の御宇當國疫疾流行す氷川明神の

冬嶺山松秀寺 同所東の方一丁斗を隔つ相州藤澤清浄光寺

の末寺や々々時宗の道場なり昔ハ武州高井土よりありて常光

寺とのひ遊行上人の宿寺なりとて宝曆二年壬申此地へ移れ

其時より松中奥閑山ハ遊行五十世快存上人ノ号ハ

延命地藏菩薩 當寺ハ安置を徳一大師の作や々々頗る靈驗あり祈願

諸人絶す 相傳ハ昔加藤主計頭清正

最正山覺林寺 樹木谷道より右ゆありて日蓮宗や々々房州

小湊の誕生寺ハ屬を元禄年中の閑創中々閑山と可觀院

日延上人と号ハ 閑山ハ代の貫主中と

朝鮮征伐の時彼國の王子連枝二人を日本へ連れりて沙門と

兄とハ高麗日送上人と号ハ肥後國本妙寺の閑山とて弟ハ則日延

上人是なり當寺ハ清正の画像一幅を藏す 生前自画りれとあり

正五九月廿四日毎ハ神前ハおのく千卷陀羅尼を讀誦す 又清正朝鮮征伐

の時兜の内ハ籠られ釋迦如来の像并朝鮮國より軍旗を

申送られ書簡等何事も閑山上人當寺へ収られとあり

龍吟山奥雲院 同所坂の上よりありて曹洞派の禪林や々々芝二本

榎廣岳院ハ屬す

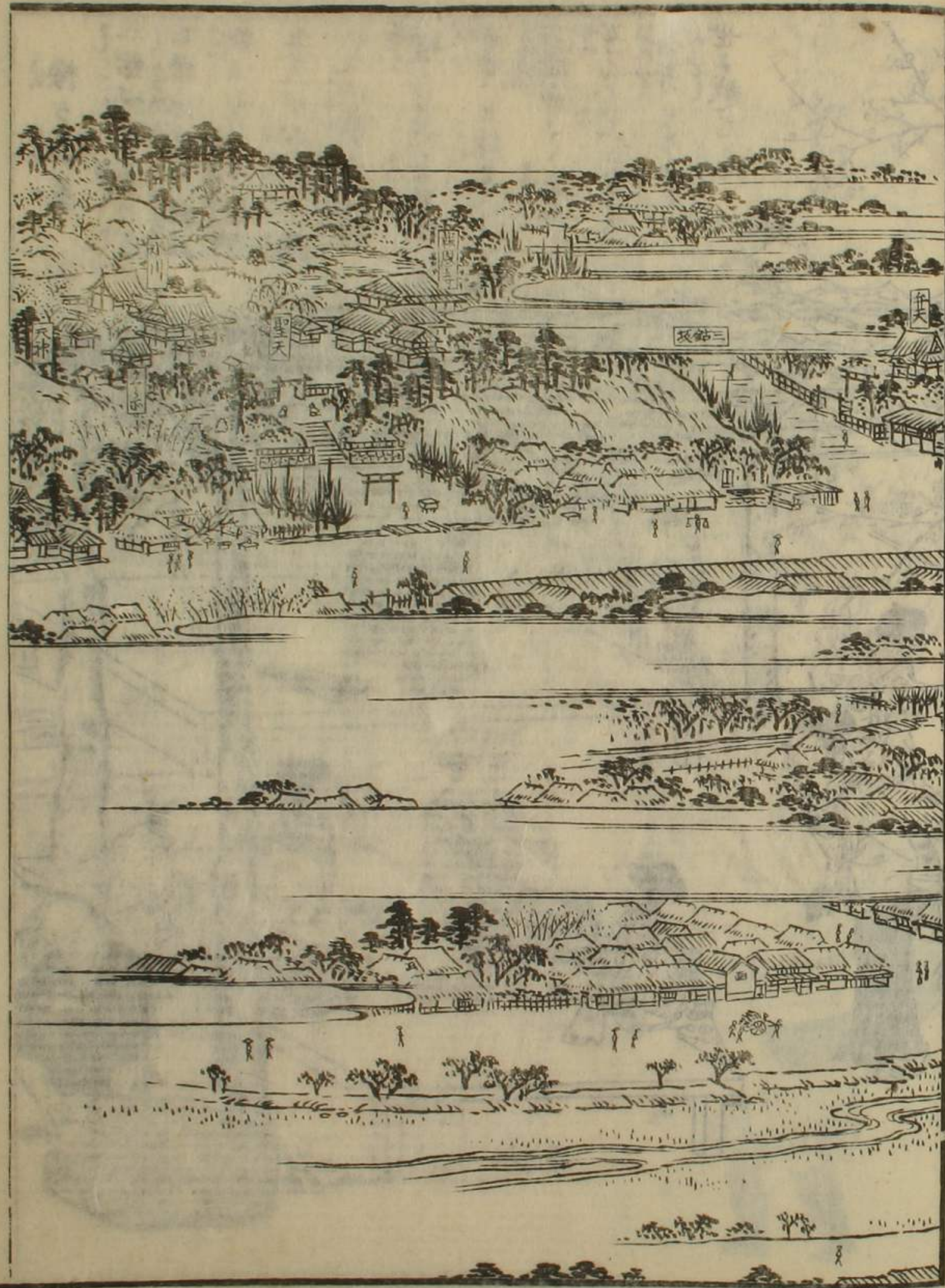
本尊十一面觀音 世ハ表喰觀音とも稱す 縁起云聖武天皇の御宇

誓文會誓主勲和州長谷寺の觀音を彫刻なりとあり

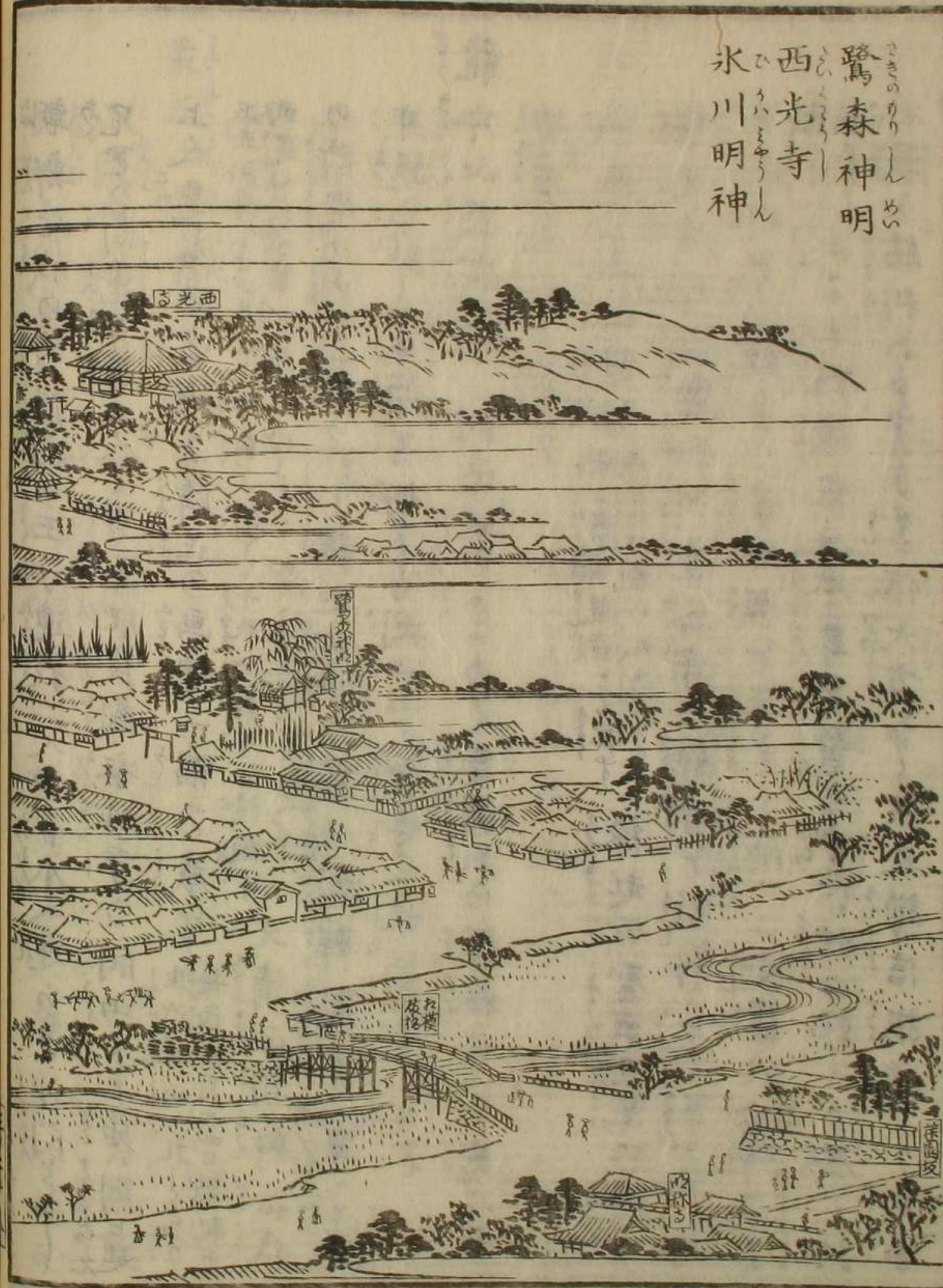
其餘材を以觀音の像七軀と造立し所ハ安置ハ當寺の御宇

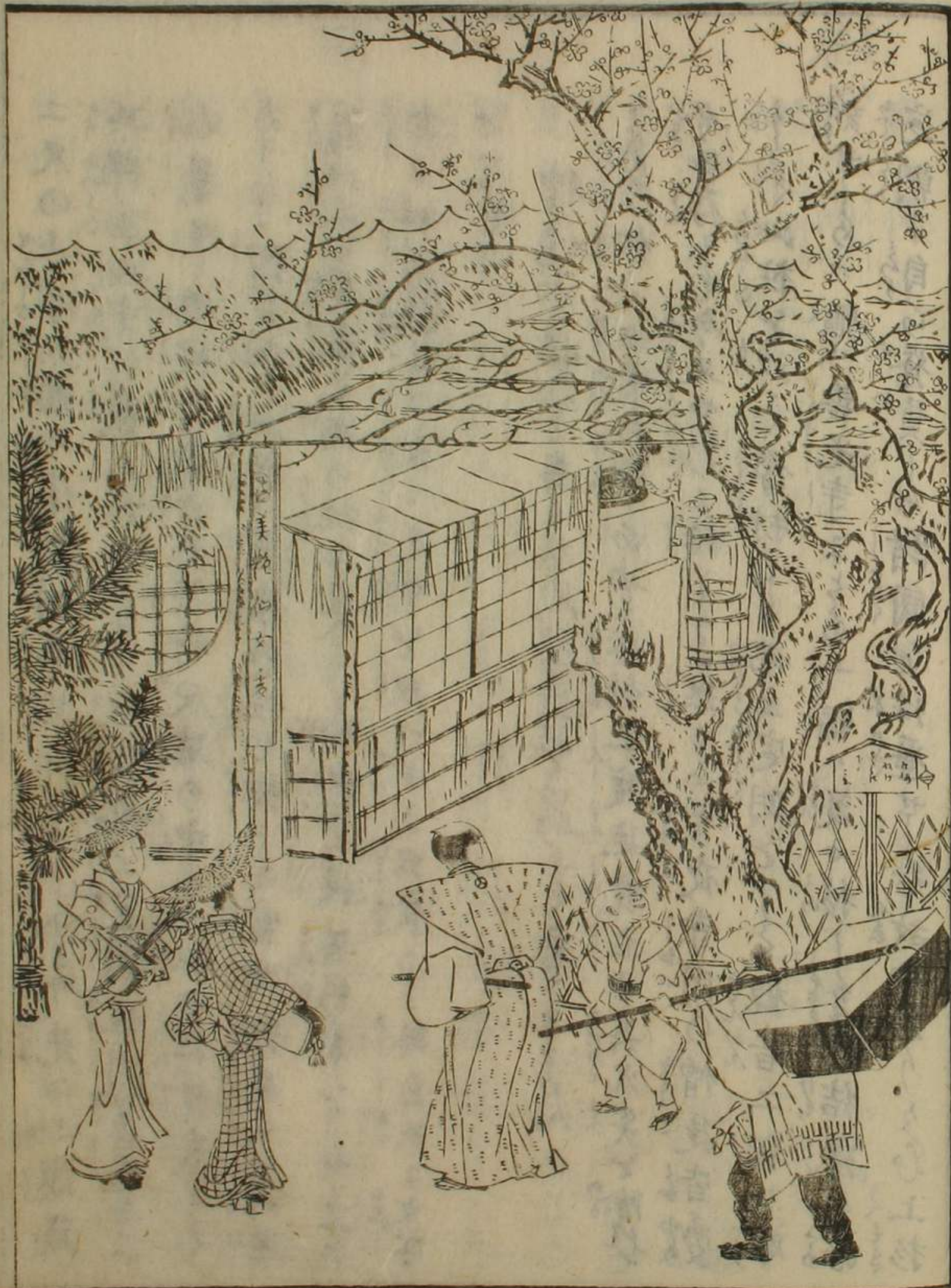
長一才八寸 然上杉謙信此本尊と誓の中に収られり度々此

合戦ハ勝利ありゆより信大方あり又謙信旅僧あり立像



鷺森神明
 西光寺
 氷川明神





梅屋茶屋
 三鉾坂より左の方
 白銀氷川の社に
 側より一年遊行
 五十二世阿一海
 上人此家の梅を
 愛たりし一首の
 和奇を詠せし
 白梅や床梅と
 号するは二月の
 芬芳もさく
 よも越て高

二尺の千手大悲の像を附屬せしめり。先の小像哉其佛胎の中に籠られしとあり。往昔佛工定朝信州善光寺ふ赤菴せし頃彼寺焼亡せ其時灰燼の中一本の柱焼残すあり寺僧は問は此柱ハ喪喰の柱と稱して當時初建立の時老翁此木を負来り西の柱とせしと云終る後其形方を志すす然る件ノ柱より夜々光明を放つ中ハ虫食する跡自然ニ文字をなせり

待倦く恨むと云々。客人の月を急ぐと云々。とあり依る虫食の柱とのを此柱三度追焼亡の其火災を除れ今亦存して今又妙と語る。然るに夜寺内の僧徒皆愛しく此柱を以て像材と佛工定朝とて觀音二軀を彫刻せしめ一軀ハ善光寺と一軀ハ茂小移し結縁の爲定朝より自ら脊負し諸國を経歴せむ故やあり。上杉

花

家傳りありと後當寺に遷し。花城天満宮 同所南の方あり松久寺とて禪林は安置に

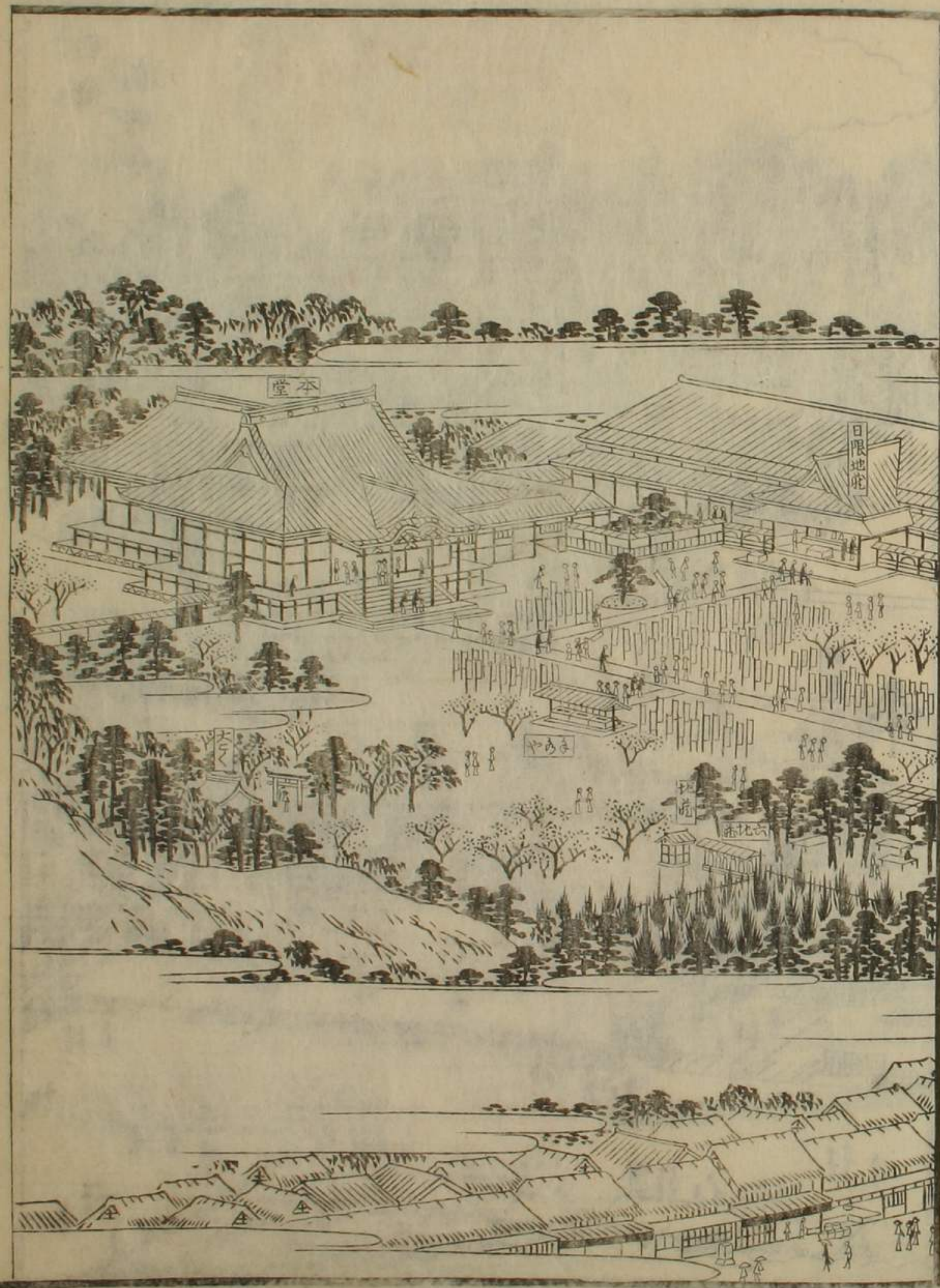
神幹 菅公の清作ありとて相傳仁和二年菅公四十二歳はなせし春除厄の爲は自彫刻し。又云此像ハ延喜元年大宰帥に左

方へ立寄らせし御記念とてせし肖像なりと云

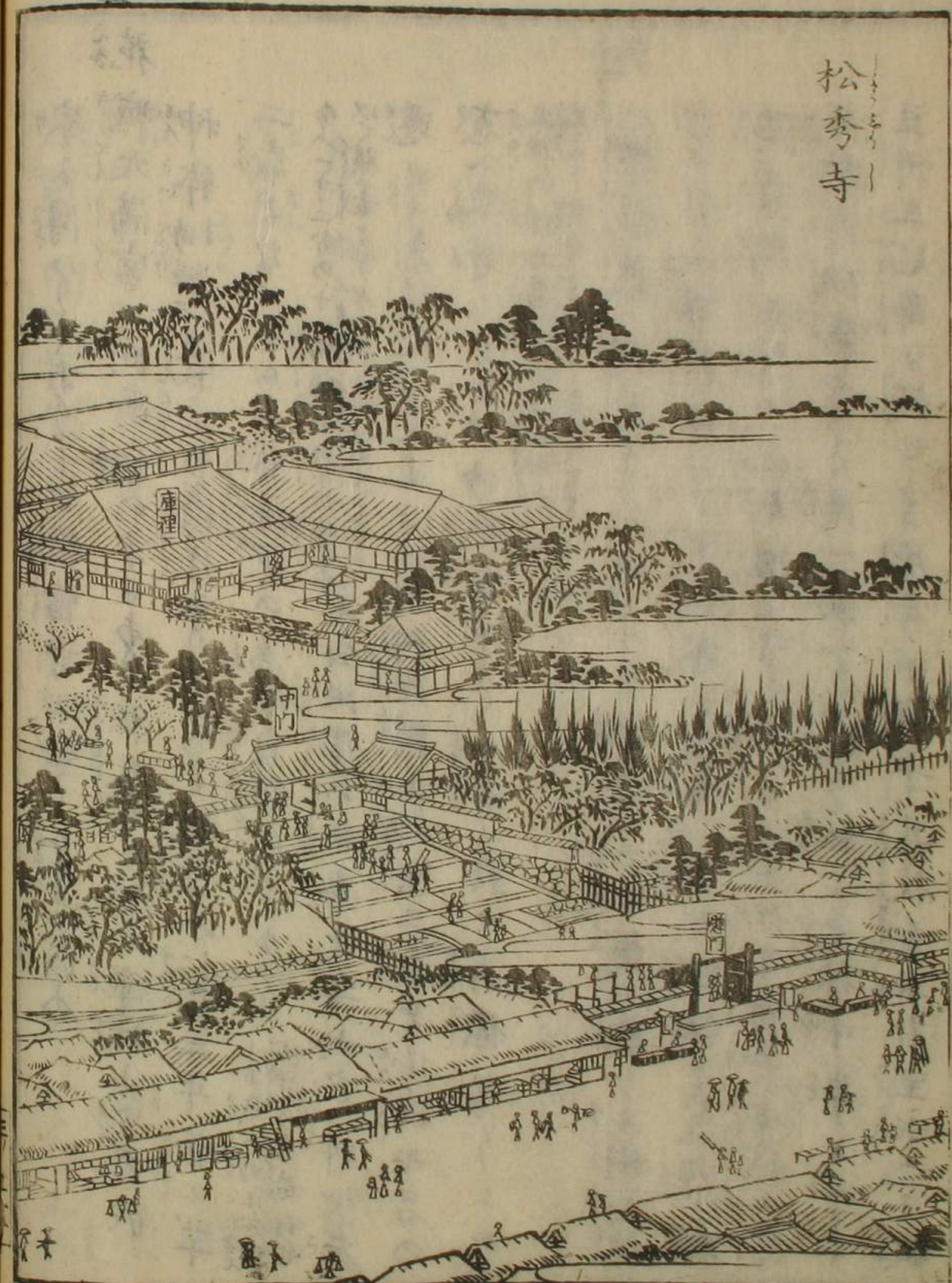
英

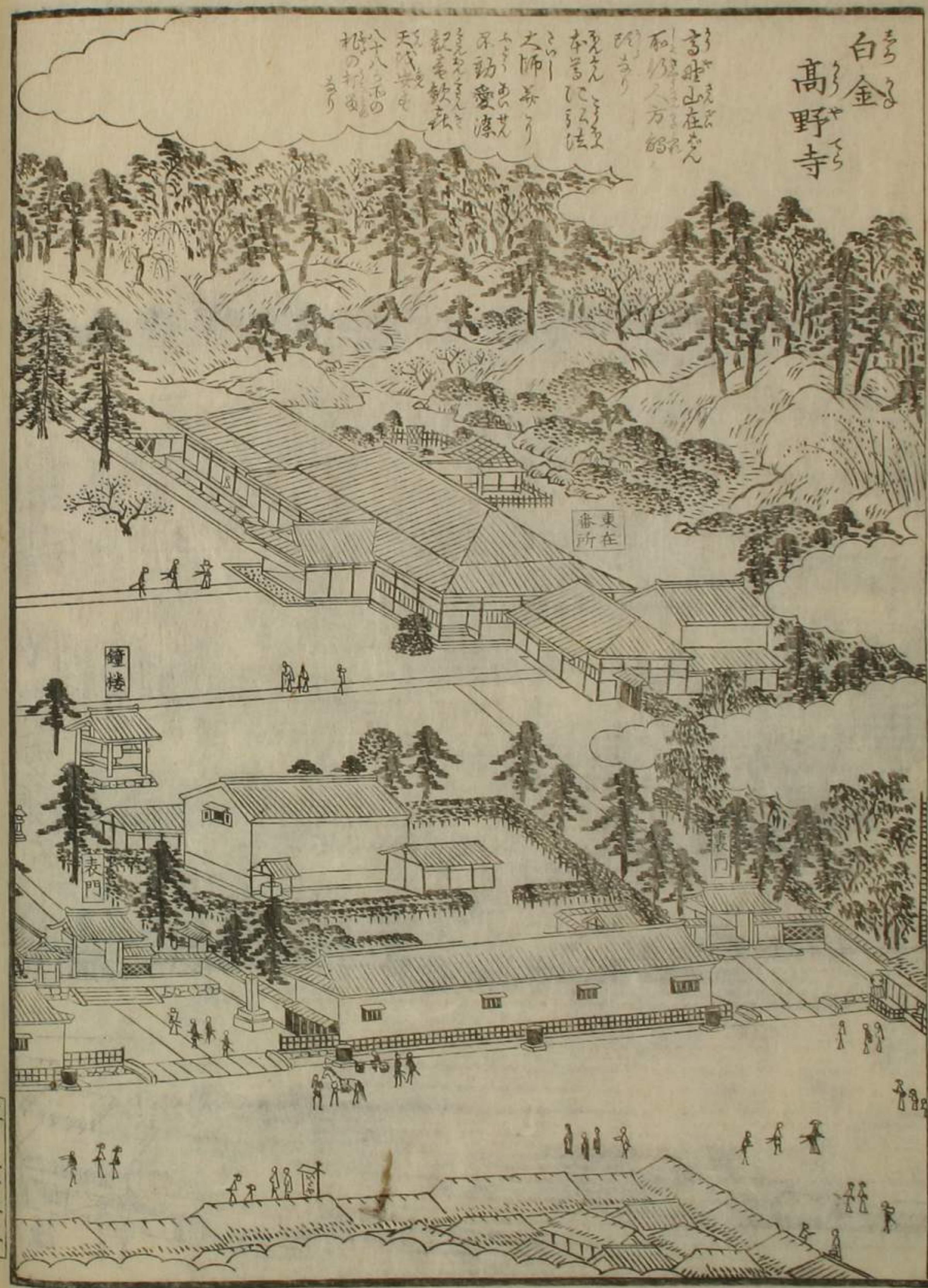
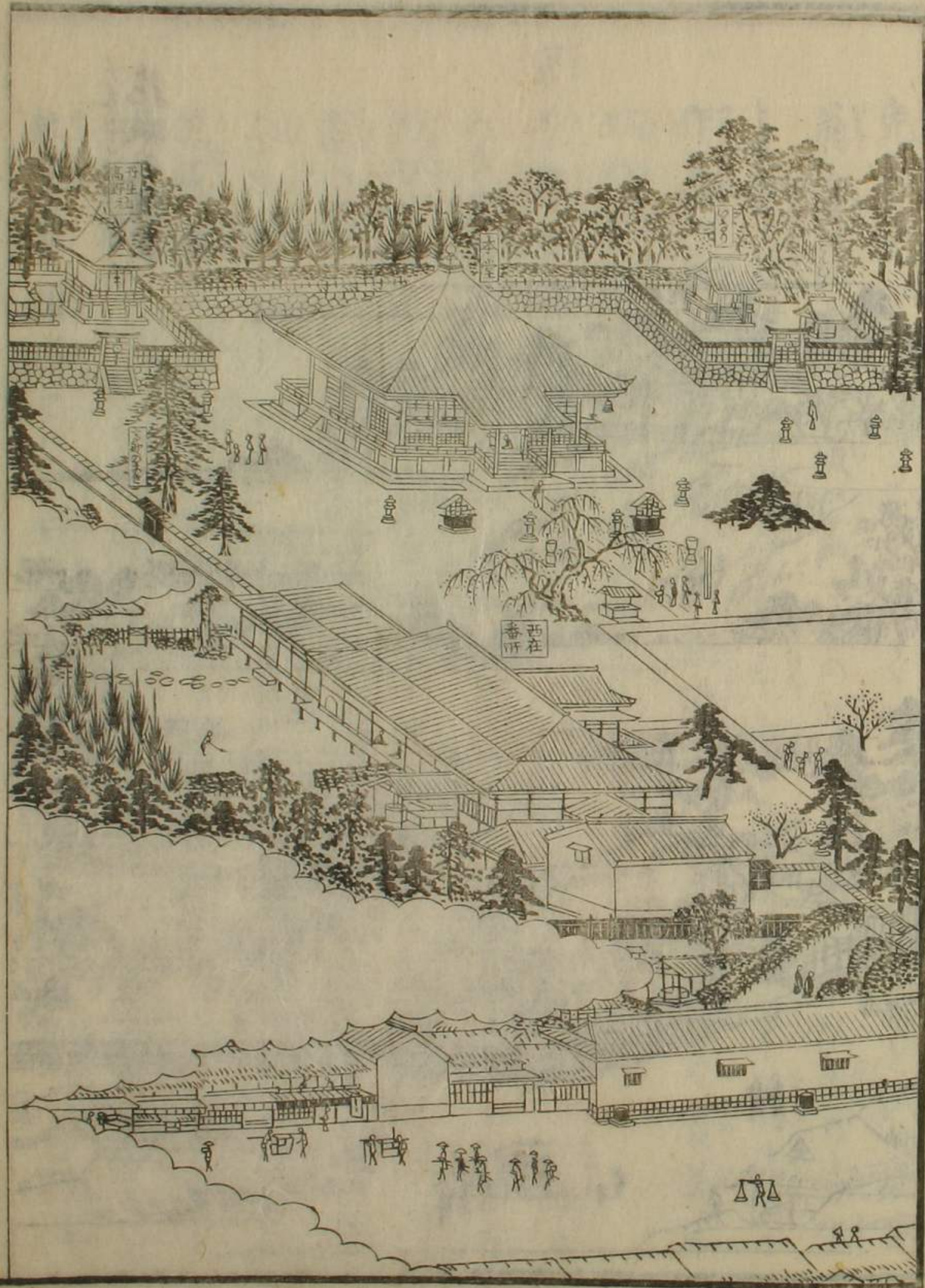
一蝶翁墓 同所より二町とて南の方二本榎の通り左側兼教

寺あり一蝶翁姓ハ多賀氏諱ハ信香一名を朝湖とて曉雲翠蓑隣熊等ハ其別號なり幼より畫法を狩野安信に受尤新意洒落なり。後一家をなせり。然る元祿中事坐す。豆州三宅島に謫せし居り十餘年其技益進む宝永己丑赦



松秀寺





白金
高野寺

高野山在
石室方
此寺
本言に法
大師
不動愛
記
天
今八
指の

東所在

鐘樓

表門

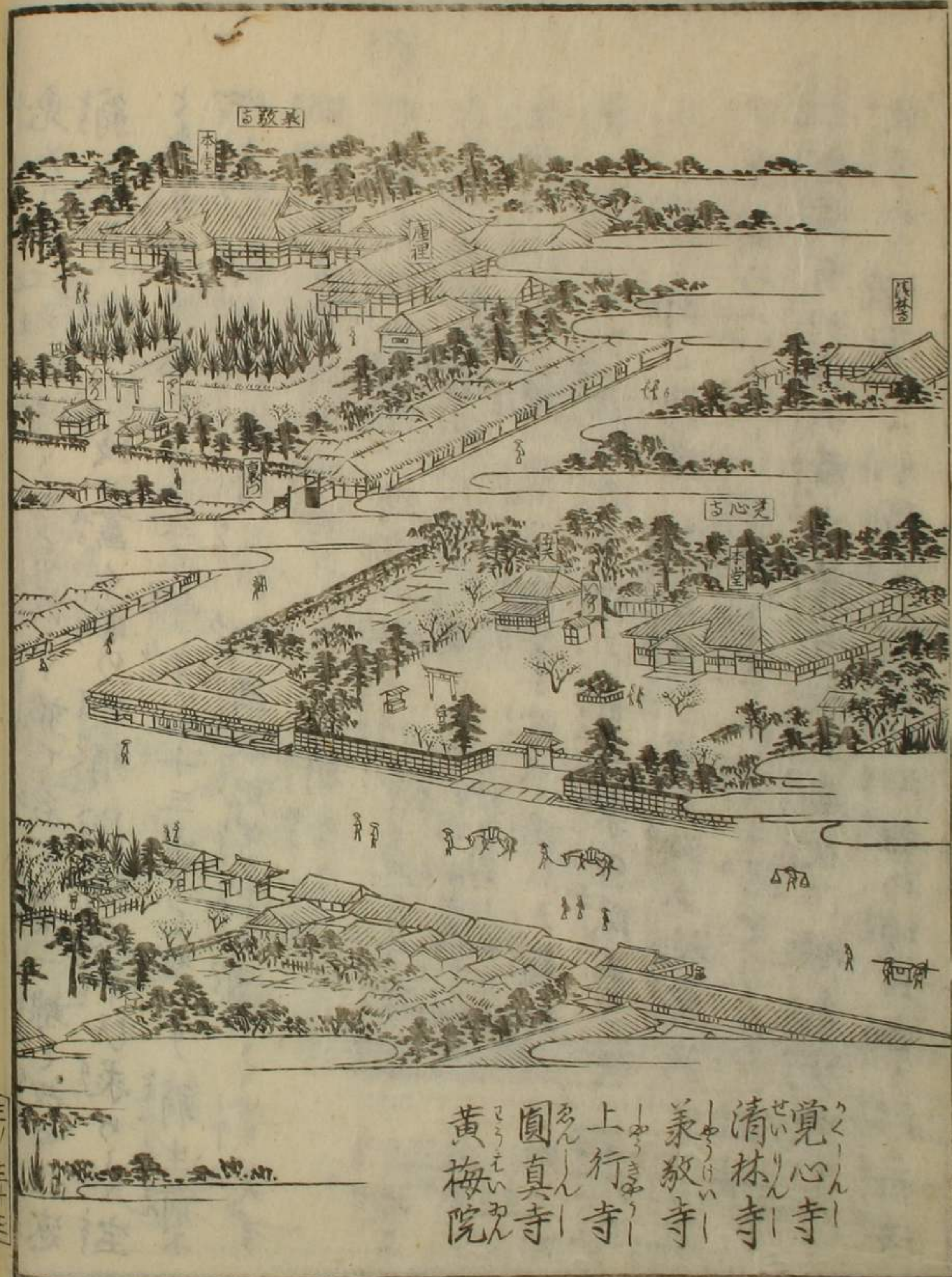
西所在

花城天満宮
たまきんまんぐう

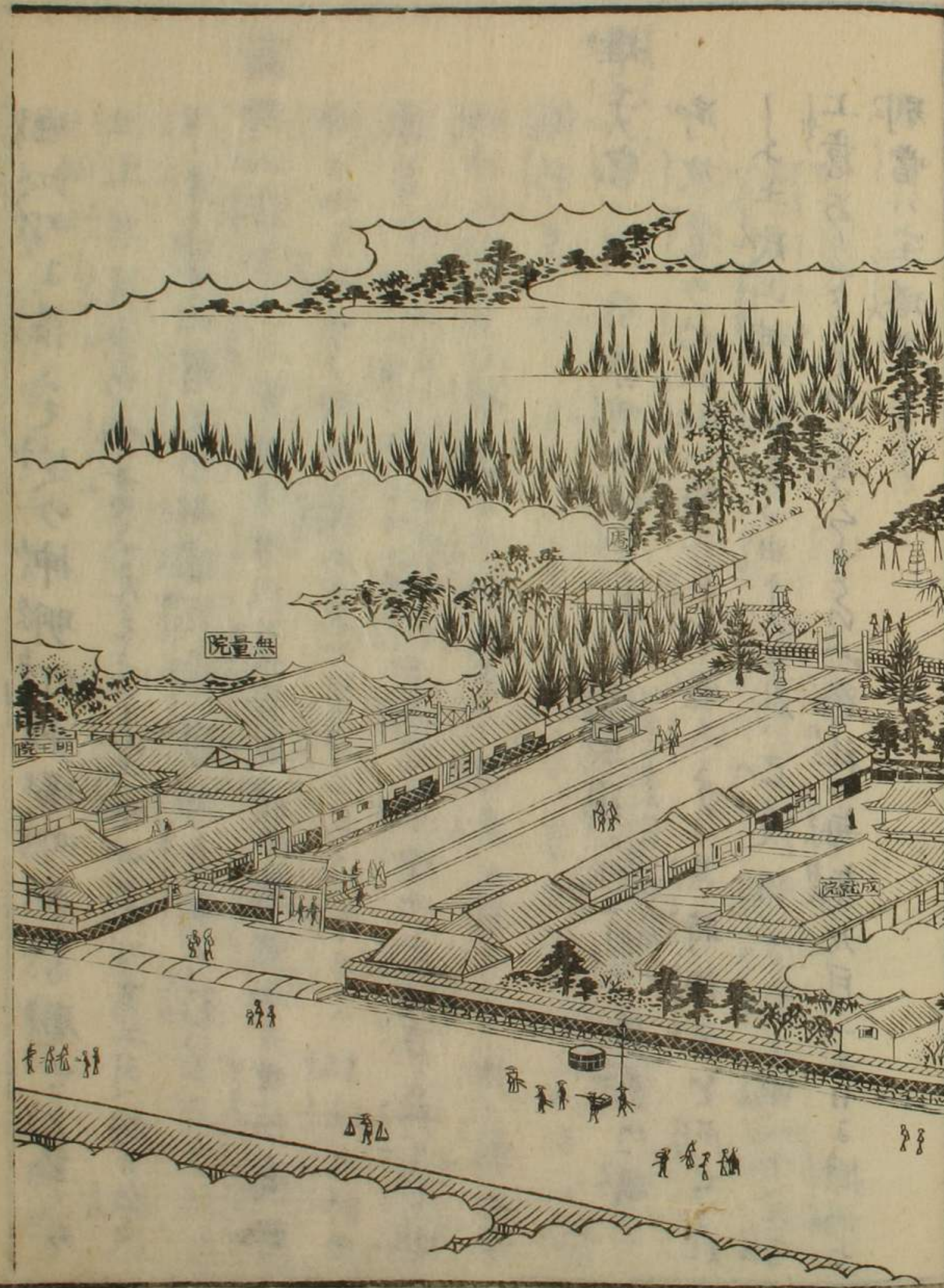


免ありて江戸に帰るるふ於て始て名を英一蝶と改め北窓
翁と号し夫より後ハ畫く所の尺絹片紙ハ争ひ求めく室
と也享保甲辰正月十三日享年七十三にて卒す翁生前小
作との朝妻舟畫蹟及び朝清水記等世に傳へく賞美す
俳師芭蕉其角と同時の人なり朋友とく

寶齋其角翁墓 同向小側上行寺とのる日蓮宗の寺境に
あり其角姓ハ竹下父を東順とのみ 江州堅田の人 榎本とのみ
其母の姓なり 儒ハ寛齋先生小学ハ詩ハ大巖和尚を師と
書ハ佐々木玄龍の教を受く自一家の風あり 医ハ草川氏
某に就て術を得画ハ朋友英一蝶に倣ふ延宝に於て免
芭蕉翁の門に入り俳諧を學び竟る名となせり 雷柱子
狂雷堂有竹居六蔵庵善哉庵文庵及び螺舎涉川等の
数号あり 晋子との戯号あり 幼推の頃母が池に住後



覺心寺
 清林寺
 兼教寺
 上行寺
 圓真寺
 黃梅院



ちんえのき
 二本榎
 正覺院
 高野山学侶
 派の在表所
 かりせよ
 うらやてし
 高野山と
 2

堀江町は移り又芝の神明町茅場町多々の庵せり事
五元集其餘の俳書ふんそくを宝永四年丁亥二月晦日卒次
享年四十七著所の俳書凡二十餘部各世は移る

高野山宿寺 正覚院と号し真言古義の觸頭あり世俗高野
寺とのと稱せり同所南の方一丁沙小ありなる弘法大師の

像なり四十二歳又ありせぬゆゑ門を入り本堂の右の方より丹生高野

両神の祠あり堂前小三鉢松あり毎歳三月廿一日沙影供と
修りせり

雉子宮 同所猿町の坂口あり此辺谷山村の内あり或慶長の頃

御放鷹の時此社へ雉子一羽飛入り其時神名を問せられ

し土民山神の祠ある由上りられ己後雉子宮と唱へし上意ありてよりかく号するものみ祭礼は毎年九月十五日は修りせり
別當八宝塔寺なり

鳥のね 雉子の宮あり

かり小なる人も多し此きりの食里を記せり名するゆへん 茂睡
按當社武蔵國風土記に所謂荏原神社あり同書は荏原神社と祭神
天神が雄命ありて天智天皇六年始神ありと記せり當社を山神と稱
するは旧より信州戸隠の神を祭る所ありと云ふなり

元三大師堂 同所白雉山宝塔寺と号す天台宗の寺院に安置は

當寺ハ則雉子宮の別當なり本寺ハ東嶽山の元三大師の畫

像と同筆の真影ありて靈威照く例月三日開帳あり此

辺と大崎と云古ハ海濱あり此地より東の方品川迄の間袖の

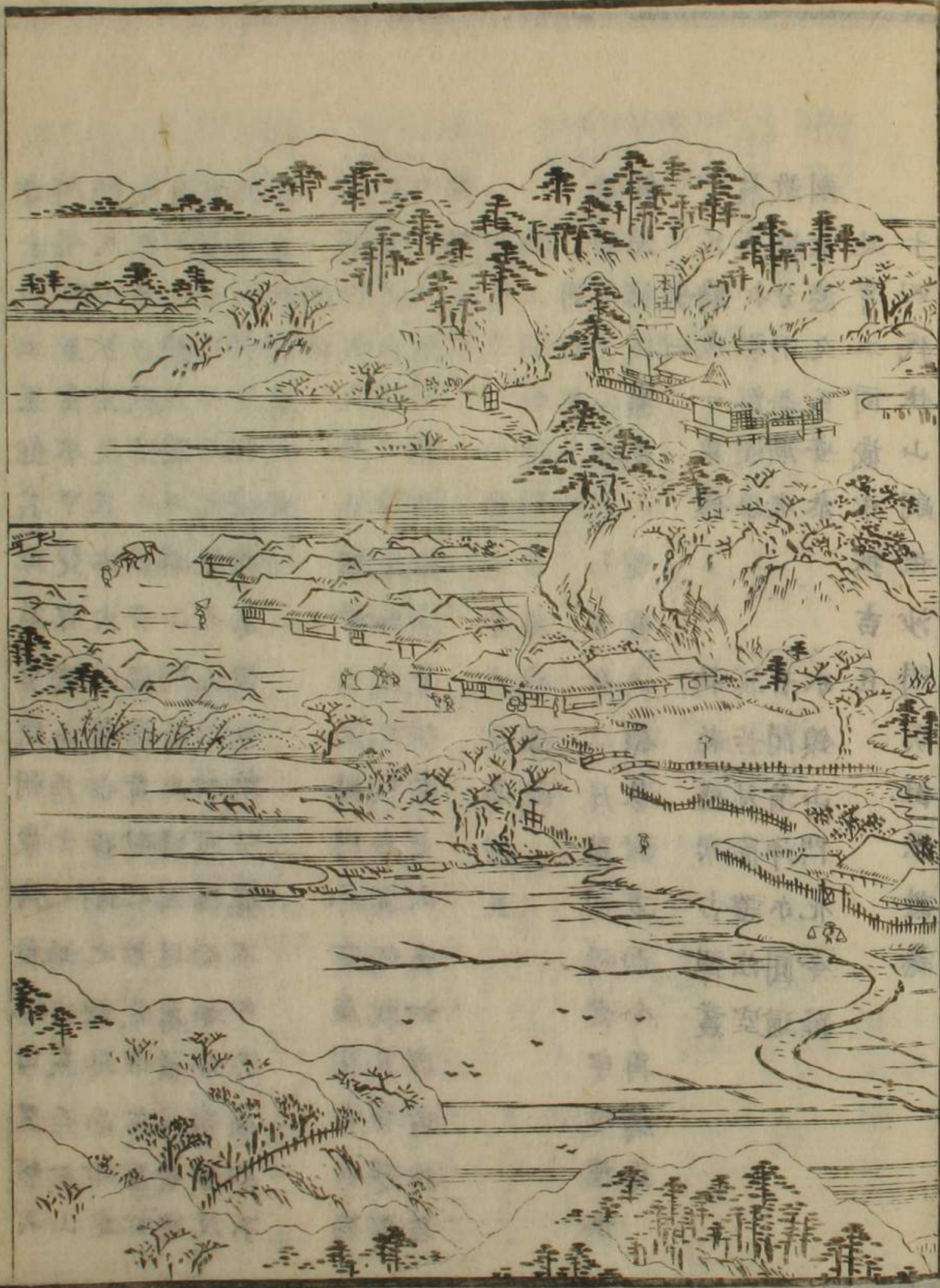
形は似たりと袖崎とも呼べり

紫雲山瑞聖寺 白銀臺町あり黄檗派の禪林なり寛文

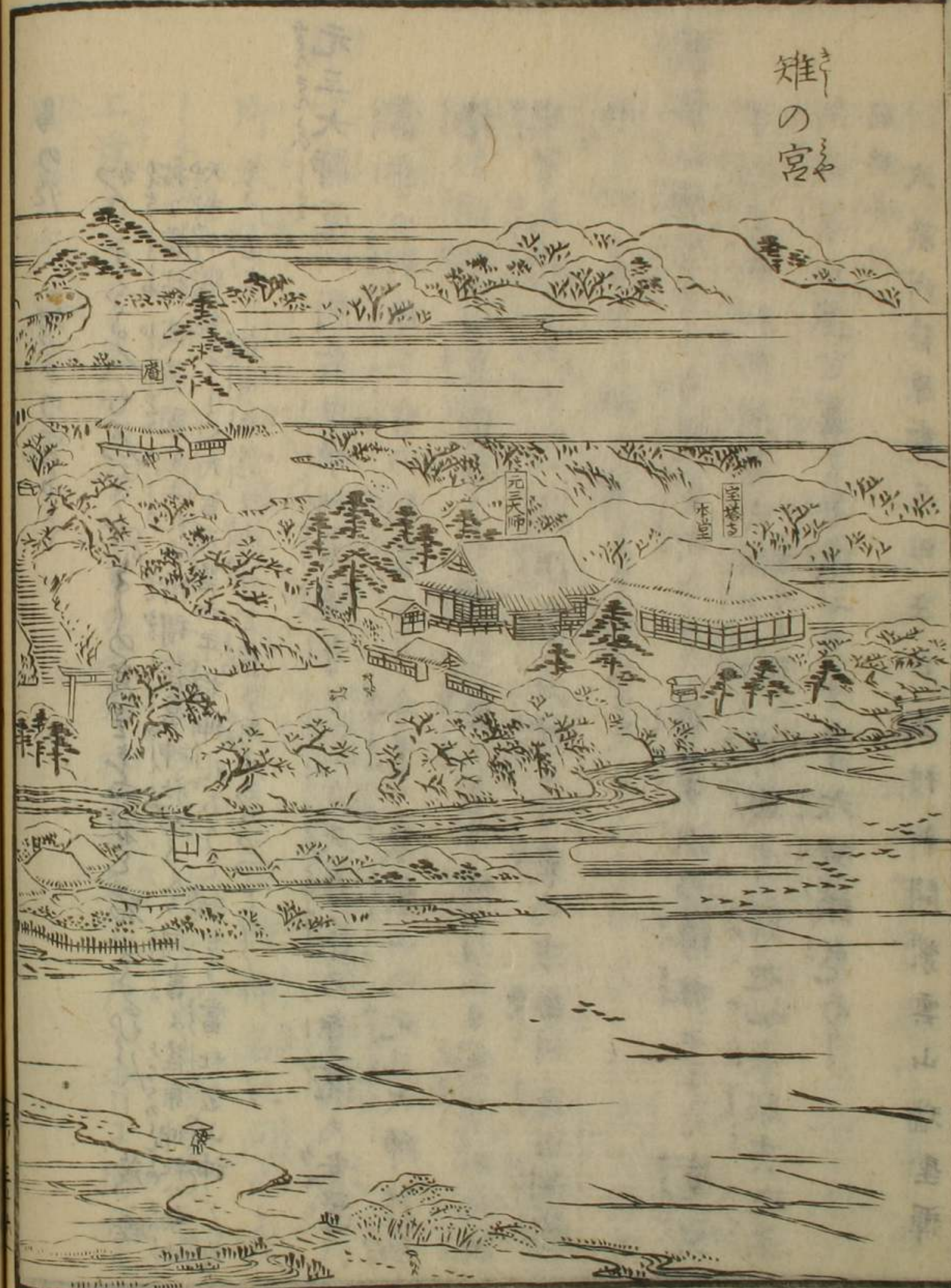
年間木庵和尚開基を鐵牛和尚佛殿ハ釋迦如来脇土迦葉

阿難等の像を置き毎歳七月十五日大施餓鬼あり

前銘并引 武蔵州荏原郡三田庄白金村新開紫雲山瑞聖禪



雉の宮



寺去城二里餘其地廣莫前朝東海後接目黑然其
 所唱始者方丈及左甲斐守端之竭力矣而至於山
 門大然殿非夙植以大鎮安能捨財之若諫緣而所建
 院捐金鑄鐘以光鎮山門託此勝因追薦嚴父空印
 幽居士女其心特銘請夫銘如斯功德不而思議即不
 辭才拙謹為銘請夫銘如斯功德不而思議即不
 須彌作日大為鑄出洪鐘內外空虛圓音普偏
 扣擊舒大地餘若悟功德至大矣如存者往者
 十方界聞證無餘若功德至大矣如存者往者
 寧法舒大地餘若悟功德至大矣如存者往者
 寬文十餘年辛亥孟春穀旦
 開山祖師沙門木庵瑯謹銘
 再鑄并引僧發志願募諸方而今再鑄焉
 鐘銘曰矣是山僧發志願募諸方而今再鑄焉
 維時鑄成巨鐘
 一火鑄成巨鐘
 晨昏擊解一
 教體分無漸次
 國體分無漸次
 國體分無漸次

鑄工 小幡内匠 藤原勝行

佛殿 額

大雄寶殿

瑞聖寺

天王殿

門前長見江山靜

紫雲山

鐘樓 佛殿の右あり
 堂中ニ珠観音
 佛の像と云を銘文を
 本庵和尚撰まるあり

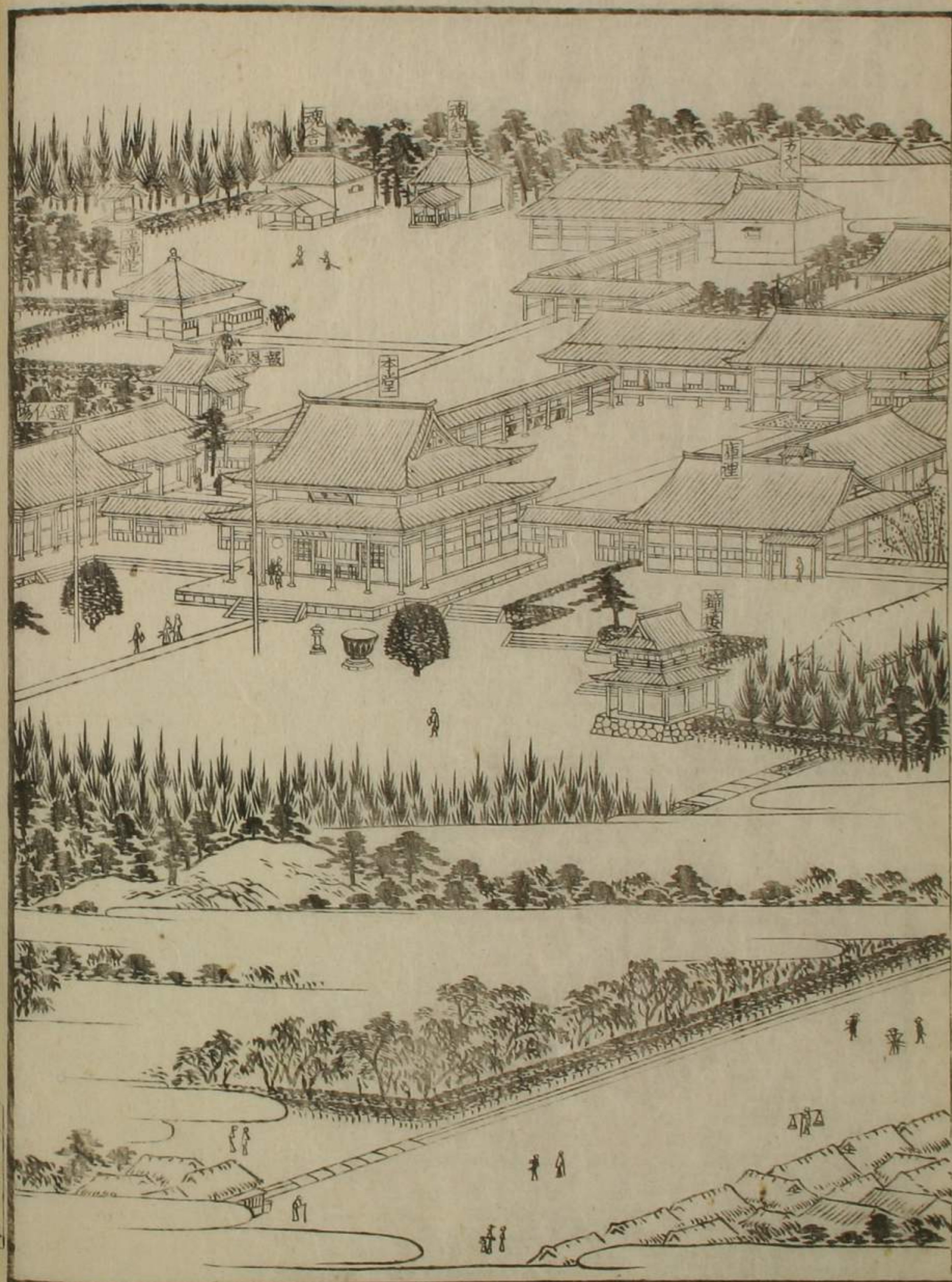
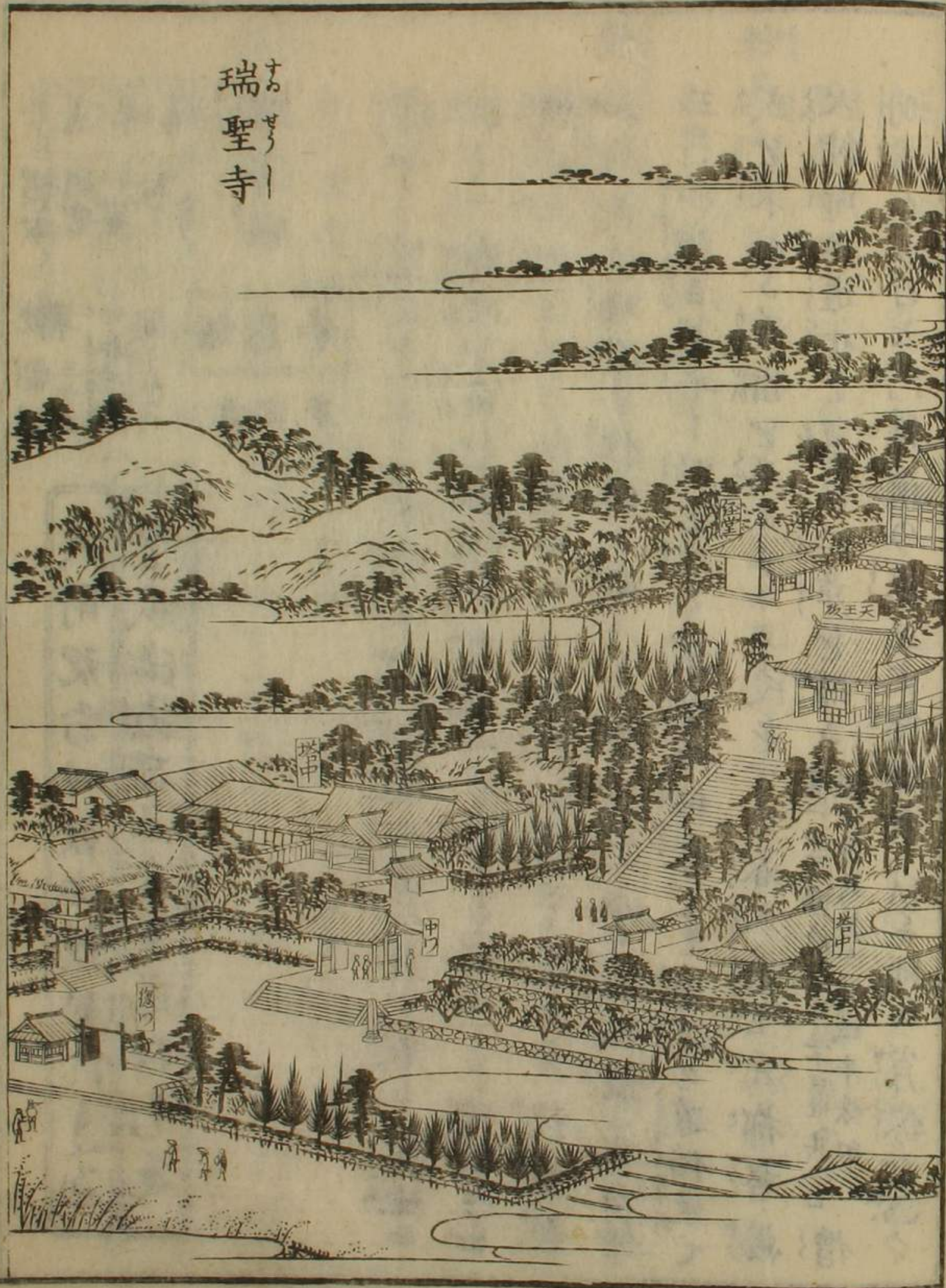
鐘樓

地務不嫌車馬喧

瑞聖門中輝妙相

經藏 佛殿の左ニ並入内ニ釋尊の釋迦の像と云を瑞聖寺の昔の像あり傳
 建立あり唐初の一切経を収む稻葉美濃守正則取寄らんとりあり
 書籍多く五十余巻と集め置く
 勸学寮 經藏の傍あり
 選佛場 同前並入内ニ開山意元禪師の木犀佛の像
 像を置て左右の柱と掲く

瑞聖寺



遊佛場

軒の黄檗木庵書あり

聯當書三十三世若冲盆書あり

牌堂額

報恩堂

雲宗筆

大用現お時欽山鉄壁以遠る
宜杖活衣安石坐毫光独是庭

當寺ハ寛文十二年辛亥青木甲斐守端山居士旨を奉りて此地に
就く一精舎を営む當寺黄檗本師を請りて閑山と名け閑堂の日
鐵牛和尚び首座と兼拂提唱せしむ甲寅秋黄檗
和尚再び瑞聖よ住師の命を分座に説法人天悦服す乙卯
三月和尚旨を奉り師を以て紫雲の継席とて遠近の道俗来て
戒を求む者指を屈せしむを丁巳春大清主左都督揚
大神師の道化と慕ひ三章を贈る其一曰臨濟正宗三十三世其二曰僧
開法長與其三日鐵牛株印
明溪り五百大阿羅漢の像五十餘幅ありし師の肖像を画く

今猶鎮守の室と當寺ハ本山の光景を模擬せる所なり

其経宮願の他の異あり江戸黄檗宗最初創建の伽藍あり

妙見大菩薩 同所三丁斗西の方道より左側日蓮宗妙圓寺に

あり足利將軍尊氏公の念持佛ありととり

鎌作觀世音 同西の方一町半斗向小側六軒茶屋町の角真言

宗光雲寺あり相傳ふ神龜年間行基菩薩諸國遊化の

頃信州更級に始て掛錫しありの平山と云ふ池中より此本より

出現あり又空中より化人ありを鎌の所衣木を持り降臨す

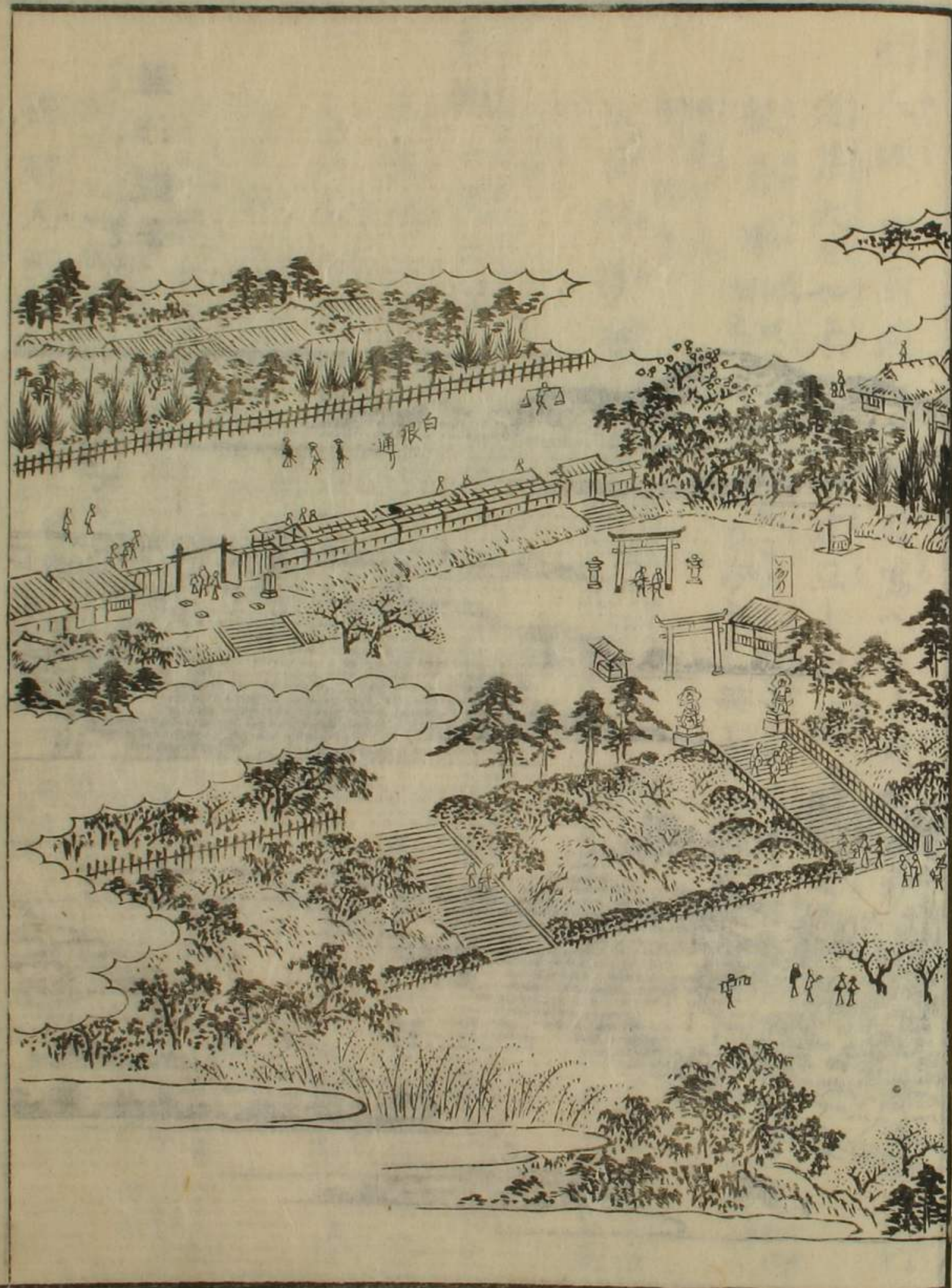
ありは彼觀音の尊像を彫刻し行基に授けり此本あり

誕生八幡宮 同所同一側一町斗を隔つて永峯町あり文明の

頃筑前宇美の地より勸清を祭る所の神ハ神功皇后一座

なり本地佛ハ別當ハ真言宗高福院と号し八月十五日を祭

祀の辰とす



白根通

白銀妙見堂
まろこみまろこみ



秋田寺

鎌作觀音



行人坂 同所同西の方目黒へ下る坂と云寛永の頃湯殿山の行

者某大日如来の堂と建立一圓寺と号此寺今ハ

般若塚 同坂の半道の側あり延享三年保山清林院の木食心誓一道路和尚

五百阿羅漢石像 同道の左より明和九年壬辰三月二十八日二十九日西具

松樹山明王院 同所坂の側あり天台宗中々東叡山に属す

本尊阿彌陀如来脇士觀音勢至を安置せり閑山を榮運法師

の常念佛の道場なり頗る殊勝なり毎月四日報恩念佛

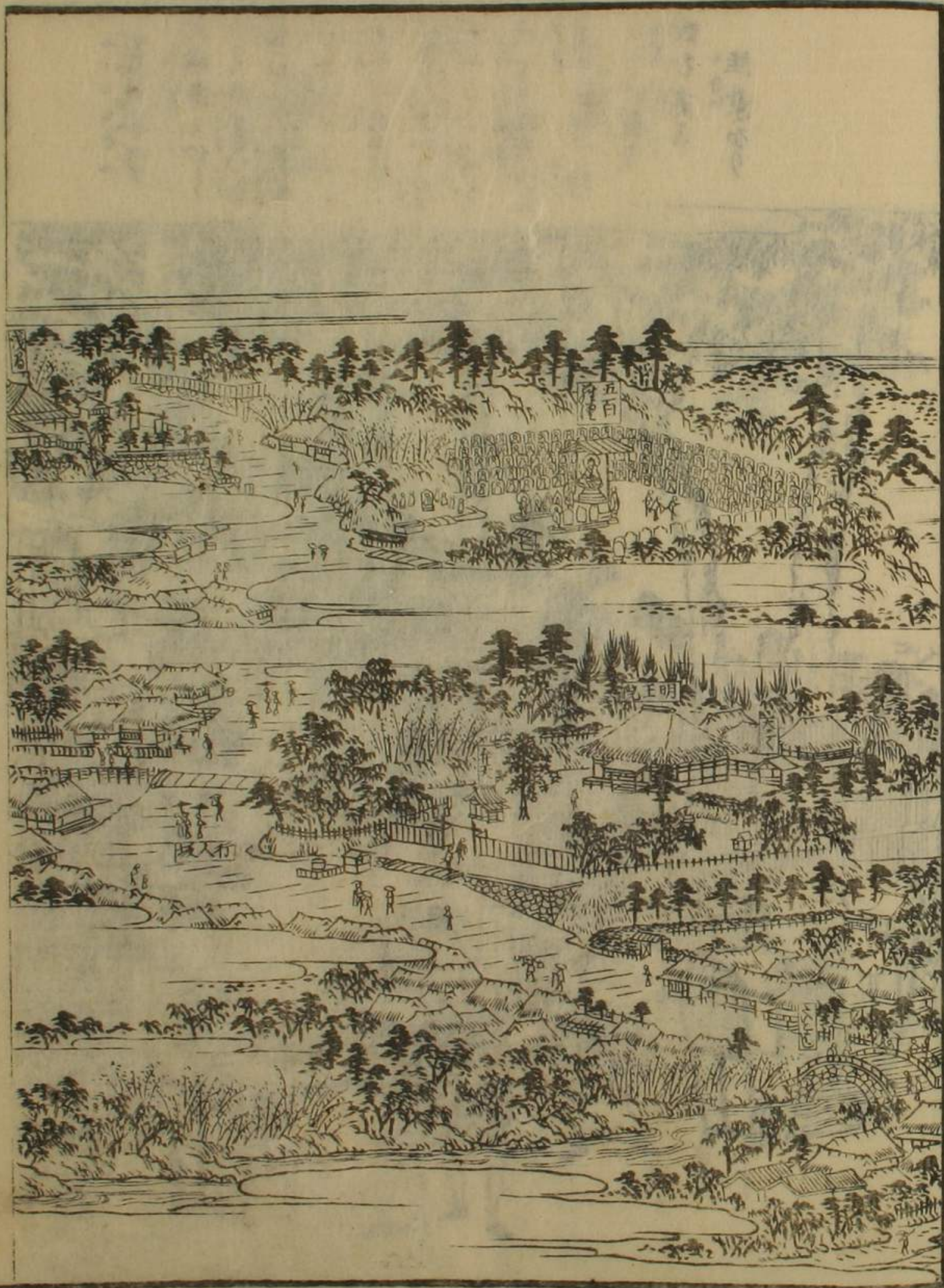
百万遍修りあり此常念佛ハ西連と云

子安觀世音 弘法大師の修行者覺佛を長州檀浦出現の靈像あり元禄元年六十六部

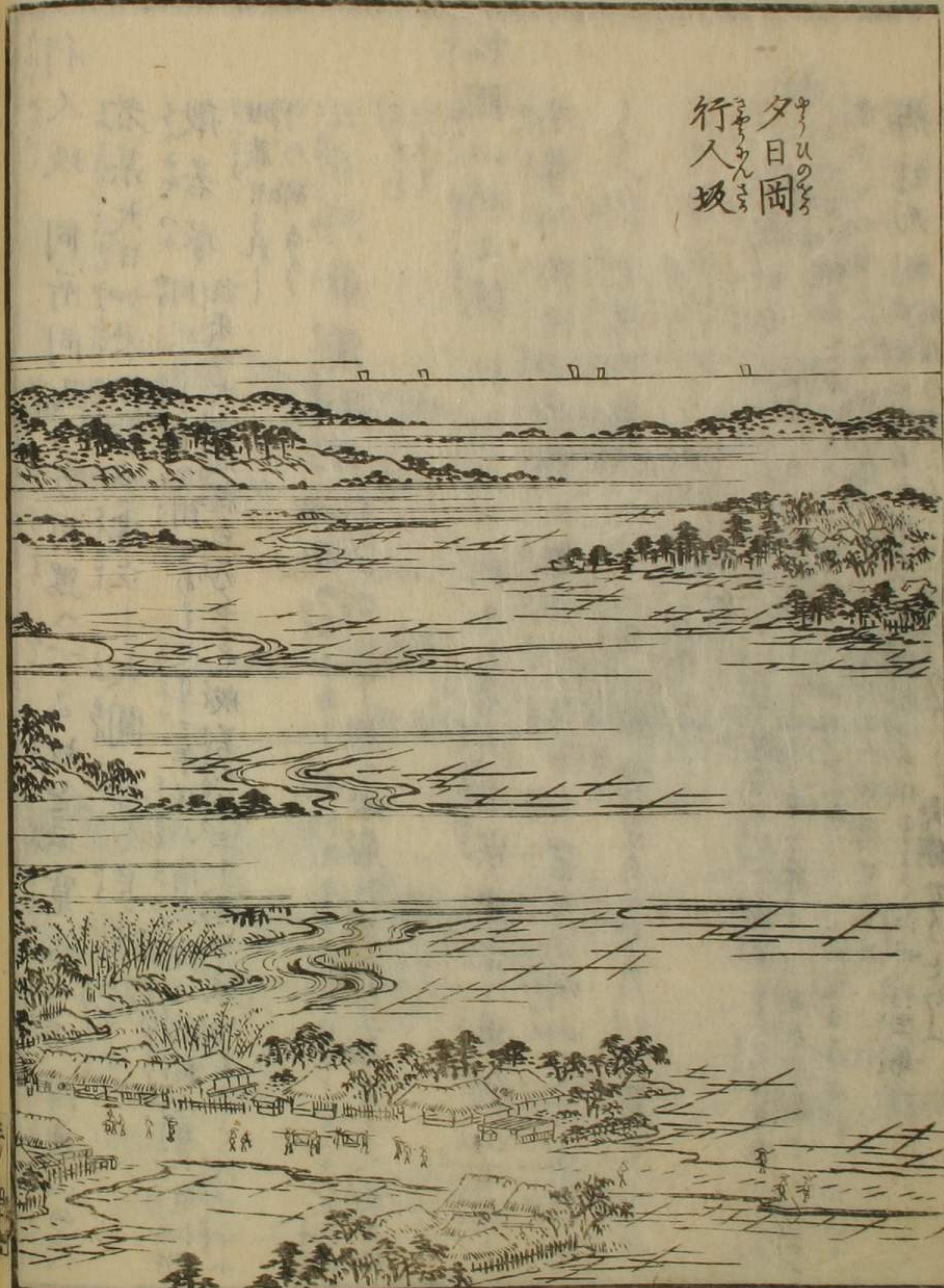
當寺劫燬順と云弘法大師の作中江州竹生島

辨財天祠 同境内あり

當寺劫燬順と云弘法大師の作中江州竹生島



夕日岡
行人坂



富士見茶亭
 西南遠き初
 けく芙蓉の白
 峯を望む風
 雲を掃き正
 玄冬の色を
 然として又
 失ふ頃更ほ
 定むる時
 一々其觀を
 故む実よ
 佳景あり



芳時る
 姉と
 三奴目そ
 抄
 人
 松青菴





太鼓橋



夕日の岡 明王院の後の方西は向へる岡といへる古へハ楓樹数
株梢を交へ晩秋の頃ハ紅葉夕日は映し奇観なりとありされと
今ハ楓樹少く只名のまを存せり

大鼓橋 同所坂下の小川は架せし目黒川柱を用ひしを兩岸より石を
疊ぎて橋とす故は横面より是を望めハ大鼓の胴ハ髻鬚
より故は世俗あり号く享保の末木食上人ハ心誓を是を制せり

霊雲山蟠龍寺 安養院と号は同所橋より一町を隔て西南道
より右よあり浄土律より縁山ハ属せし本寺阿弥陀如来を
慈覚大師の作なり閑山ハ吟蓮社龍誓一雨霊雲和尚と号は

上野國新田の大光院より退隱 境内ハ丈六の阿弥陀如来の銅像あり
又後の方山崖の下ハ岩窟あり中ハ辨財天を安置し
本宮ハ門の向ハあり惣門の額ハ安養院と書せハ黄檗獨湛

和尚の筆なり

卧龍山安養院 能仁寺と号は同所あり天台宗中々龍泉

寺ハ属せり本尊涅槃釋迦像ハ空誉上人の作なり當寺を
法華讀誦利名念佛の道場なり

蛸薬師如来 同所町家の巽の隅あり天台宗成就院境内ハ安養
本寺薬師如来ハ慈覚大師の作なり世俗傳へ云此ハ孝小祈願

ある者ハ蛸を断る是を念もる果しとく利益ありとく繪馬も
蛸の形を畫しとく捧ぐ

目黒不動堂 同所の西百歩のありハ所ハ泰叡山龍泉寺と号
す天台宗中々東叡山ハ属せし閑山ハ慈覚大師中真を

慈海僧正カク
本堂不動明王慈覚大師作胎士ハ八大童子なり
本殿額 泰叡山 後西院御筆 樓門額 泰叡山 後水尾帝御筆



蟠龍寺
窟辨天祠

寐釋迦堂



鳥井額 泰藏山 日光御門主明王院宮御筆

經藏 一代藏徑と安置せし像を置 八幡宮 早尾権現 祭神猿田彦大神或ハ素盞鳥等とも云ふ祭礼

大行事権現 此地の地主神なり 祭神高皇産靈等 石不動 何れも本堂の

稻荷祠 地蔵尊 聖觀音 岡山堂 聖徳太子 吉祥天女祠

天照太神宮 本地大日如来 切割く安置を俗小興の院と稱せ

天満宮 鬼子母神 十羅刹女祠 虚空蔵堂 遮軍神祠

結神祠 役小角 女坂の中程あり 銅像ハ 三佛堂 彌陀

子安明神 鬼子母 疔瘡神 粟島明神 石地藏尊 江島弁天

秋葉権現 六所明神 荒神宮 辨財天祠 江島弁天

地蔵堂 堂内稻王脱衣婆 觀音堂 中ノハ聖觀音廻り西園坂東秩父

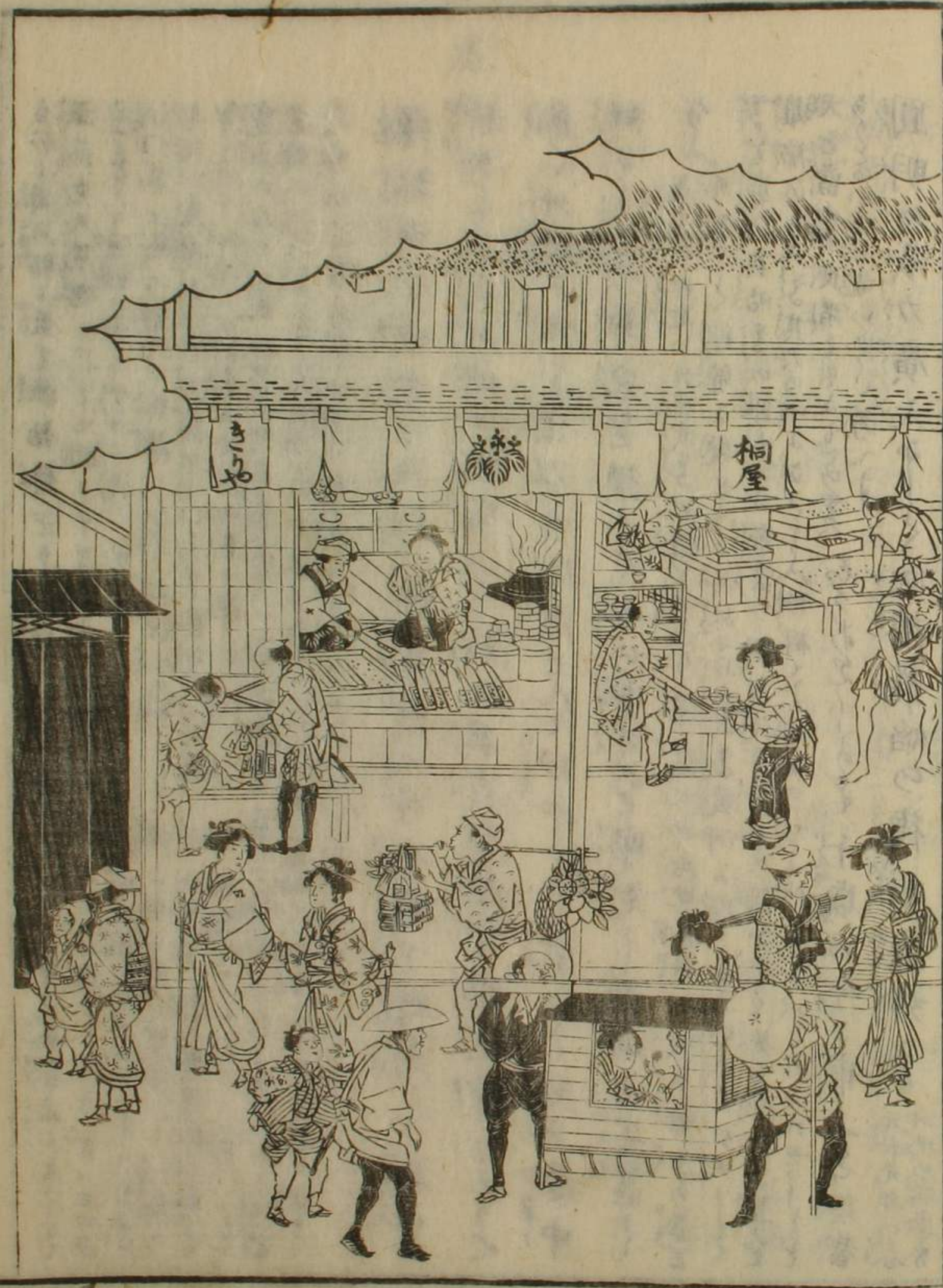
勢至堂 稻荷祠 前不動 左右二十天の像を安置す 樓門 左右ニ

使者の像を置き 獨鈷の籠 當山の垢離場あり 往古和十四年當寺



鮎薬師堂
しやくしやうだう





此の地の名物
 とは
 是を商ふ
 衆多し
 糸の菓
 赤めて
 土産と



多の頃此地に至り独結針をりて此地を穿ち得る事ありと常々泉涌くといふ
派落炎天早懸とてこの洞々なる未日黒一柱の水田に引用するなり昔ハ三口小
以門其江島の飛天祈請し再ひ元の如く故は今年當寺あり江島の
并天へ衆僧を請ひて誦経せしむる意鷹居の松石階の下ありて蒼々として
寛永の頃大樹此地に所遊獵ありし其時鷹居前に松ありて依り別當
實樂の僧の旨ありて祈念せしむるなり其時鷹居の松石階の下ありて蒼々として
所感ありてなす此樹は鷹居松の名をとりてなり

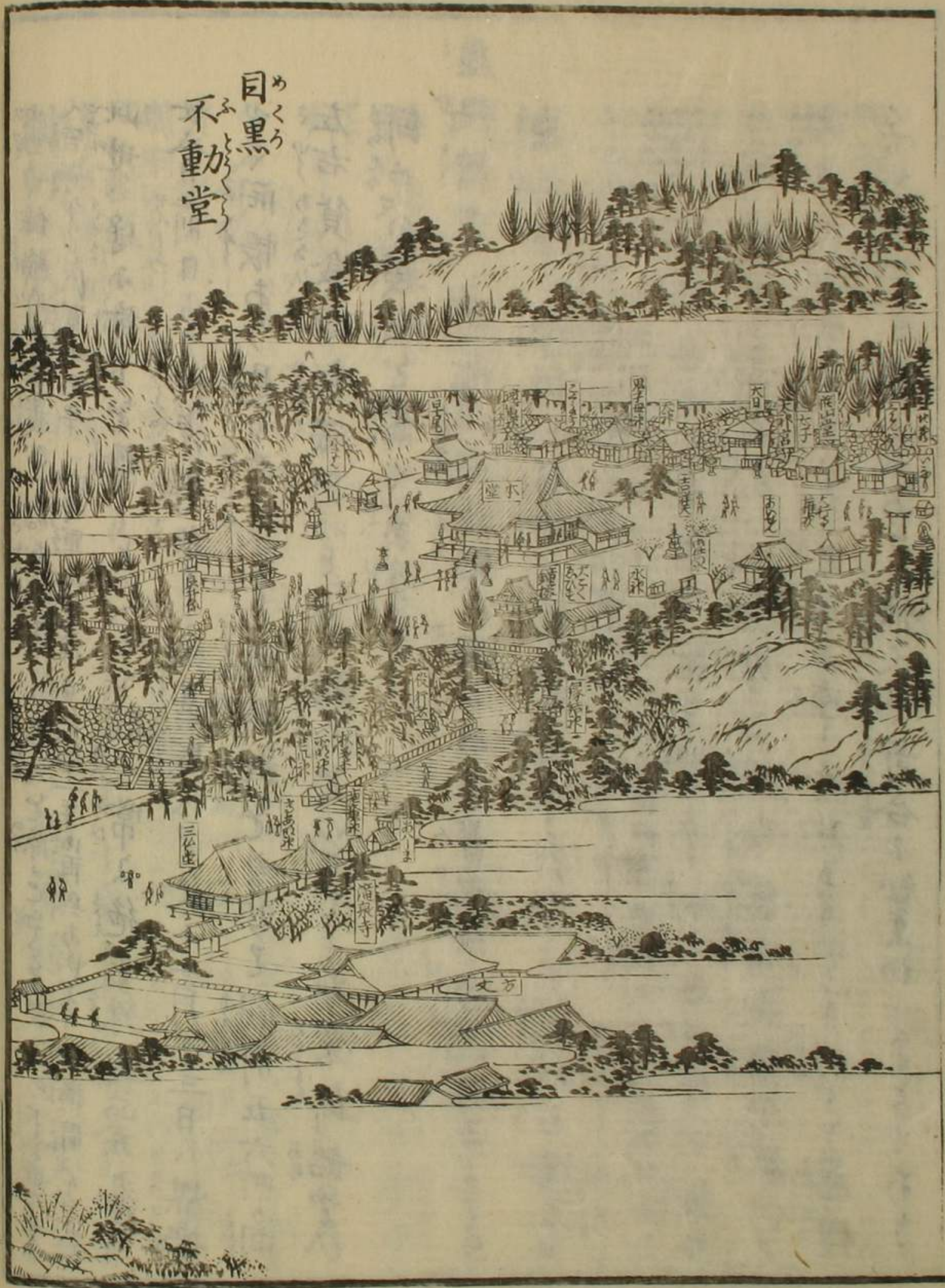
縁起云平城帝の大同三年慈覺大師本國下野國より春山に
赴きこの頃此地に投宿あり然る其夜の夢中明王靈尔ありて
永く此地に跡を虫群生を度せんといひて覺ると翌日夢中
拜する所の尊容を摸して今の本寺を彫刻し當山に安置し
或人云此地は日本武尊と鎮あり慈覺大師此地往歴の頃不動の像を
彫刻し神籬を擬せし其故は日本武尊駿河に狩し山後放火し
難を蒙り其時其の佩する聚雲の劍を投ず狩犬の網を切く放ち燃來草を
燃し當山の使者とすもこのゆゑありあはれといふ千歳の今は甫かを理智
圓明の威力廣大なり迦樓羅焰の徳用深妙なり
元和元年の春此地の衣家あり

火出く餘焰所堂に覆ひて時々猛火を降る事あり滝の下に苗りて人皆奇なりと寛永元年大將軍此地を狩りて同十年に再興ありて結構備はりて
此地ハ遙小都下を離るること一里許人常々絶た殊更五五九の月
廿八日前日より終夜群参し甚賑なり又十二月十三日ハ煤拂
かく閑帳あり是も前夜より参詣群をかせる門前五六町の間
左右貸食店軒端をつとて詣人といふことむ粟餅飴地ハ
餅花の類ひと齋く家多し

虚無僧寺 同所門前大路の西にあり普化宗金洗派ありて
東昌寺と号し扣番所と称し本寺ありありて或風呂屋とも
唱し金洗派活忍派西向派安樂派水戸八箇寺ありて惣本寺の番所と
西光寺 雍州府志に虚無空寂を宗とす故小虚無僧と稱す
又薦僧とも書し意ハ其徒常々風喰露宿險難を厭ひて
諸方を経歴し至りて建薦座に足まりてす仍く薦僧
とも云中世暮露と云あり職人尽奇合よむまじりてあり



目黒
不動堂



洛の如安寺は朗庵と号する異僧あり紫野の一体和尚は親に常は風定道人と稱す尺八を吹くたのしきあり風定庵持の作略を慕ひしあり始宇治の吸江庵に住す世に云々の歴無僧の杖あり九東職西州風定道人の門下あり明惠上人の草創を以て普化和尚の流派といふとも風定のより魁を取らざりたりあり明惠上人の草創を以て兼好法師のつちも草創を以て云々

大鳥大明神社 同所不動より北の方二町を隔つ別當八天台

宗小々大聖院と号し祭神日本武尊一座なり相傳ふ大同

元年丙戌泉州大鳥の御神と勸清しなること当社八目黒村の

鎮守あり祭礼八社朋の九日を例と此日角力與仍あり

按目黒不動より日本武尊の説を交へハ此社を誤して云々んを

不動の条下と合せ云々

附北条家の所領帳帳小太田源七郎島津孫四郎等此地を領せり此記せり

東鑑は建久元年十月七日の条下小目黒弥五郎と云々名を載り此地より此

金毘羅大権現社 同所二町を隔つ西の方通を隔てあり祭る

所横州象頭山金毘羅神と同一當社を以御城南鎮護神と

稱しなり九条家漆筆の額を蔵を別當ハ禪宗より高

幢寺といふ境内は難波の梅又曾根の松と稱する樹あり

千代崎 渋谷宮益町より目黒長泉律院へ乃道の傍芝生の

岡といふ佳景の地中々永峯に属せり絶景觀とのみ松平

主殿侯の別荘の号中々閑寂無為自然其地は應也

高峰山長泉律院 同所六町を隔つ西の方あり浄土宗中々縁

山は属を則縁山前大僧正成誓大玄和尚を開創の主なり

不能律師弟二世と弟三世と徳門和尚とす

惠敬彫造とす

本堂 山の鞍腰ありと文室と云々十間の回廊と本尊ハ上品上生ハ

阿弥陀如来なり 座像四尺余慈覺大師の作泉州堺の心蓮寺あり請得

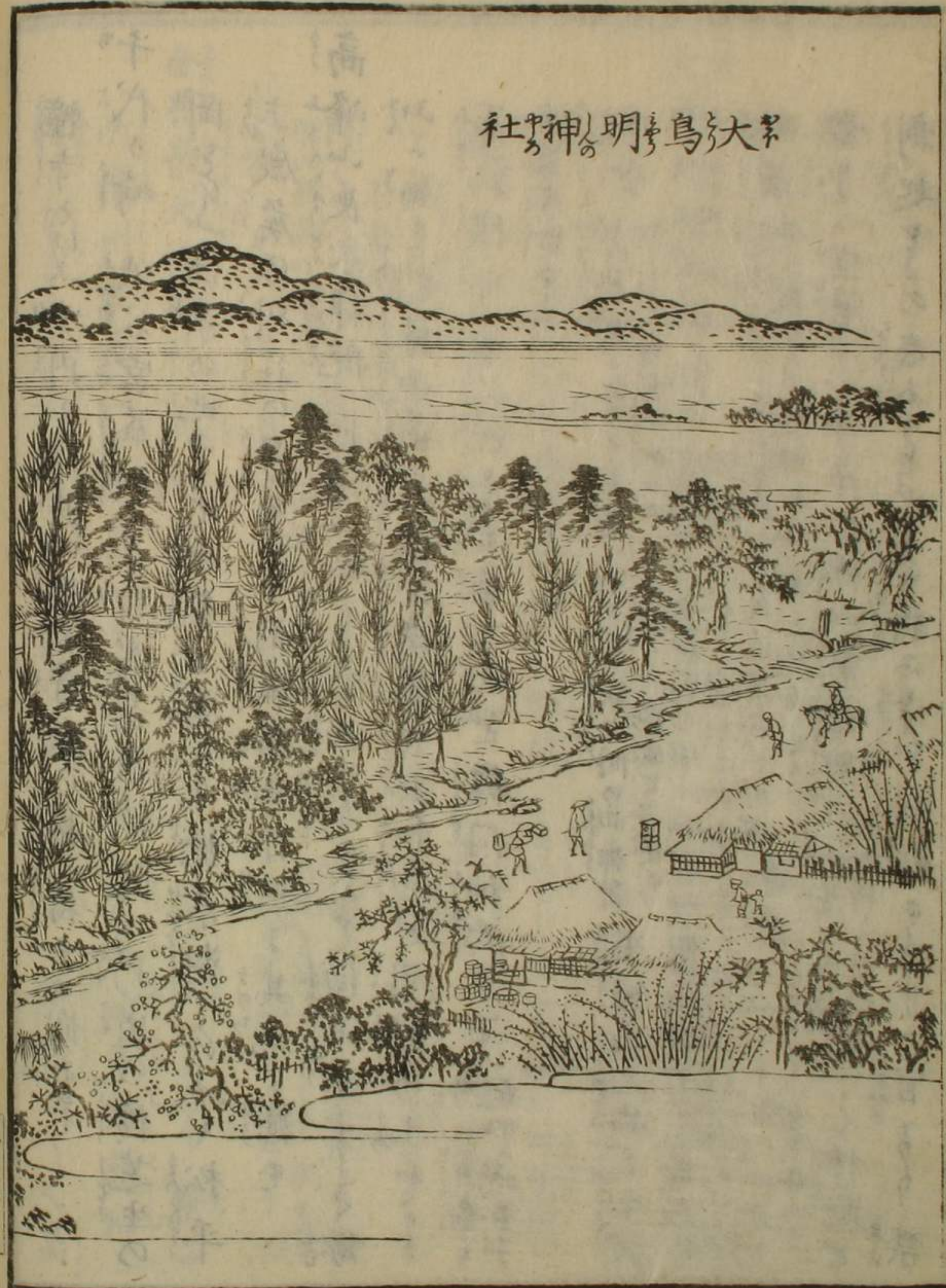
経藏 論三蔵地より左の御師の御説を安置せり 鐘樓 安永元年徳門師建

當寺ハ宝曆十一年辛巳縁山前大僧正成誓上人の御説を安置せり

創起せり志ありといふ新小寺を開創せりハ官より禁



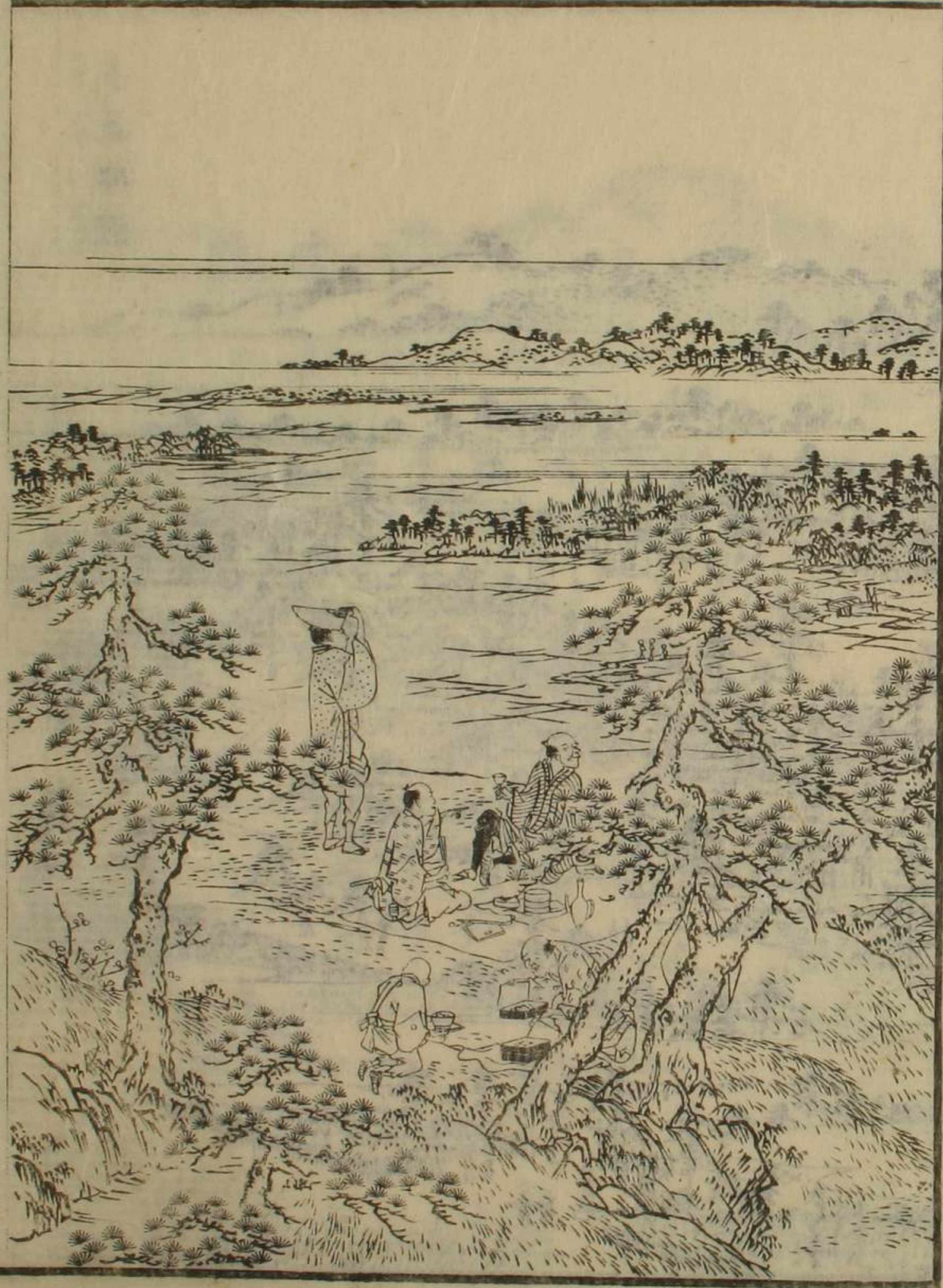
大鳥明神社





金
毘
羅
社





子代の傍
 行人の北永松
 主殿作別荘の傍中
 目録の方へかしたる
 なり初録の傍といひ
 しを後また子代を
 改めしといふも後非
 構の旧跡よそ此の
 傍小衣掛松といふ
 所ハ形ハ美観の空
 兼松夫にのほし
 室松ののほし
 松は此松を
 投しとて松泉
 親といふ
 此松の傍
 ありとそ



長泉律院
ちゆうせんりつゐん



故の事ならず 不能律師に至り 學建既す 大玄大僧
 正寂あり 依師の遺志を奉り 法弟千如等 百計千慮
 企つ川越蓮馨寺主教意上人力を戮せ 扶成を再ひ官に
 告て所請 準まらざるを得く 創建落成を号けく 長泉院と云
 山間より 清泉涌出 境内を 扶費の施主北川氏某に於て
 寶曆十三年の夏 千如等 德門師を請て 當寺に住持とす
 徳門律師行狀記云く 師諱 普寂 字 徳門 自ら 道光と号け 勢州
 桑名縣 增田邑に誕せ 父 一 向 依 源 流 寺 主 秀 寛 母 中 村 氏 あり 師 襁 褓 せ
 て 六 歳 書 を 讀 心 投 じ 佛 經 の 經 書 一 受 輒 記 年 と 異 中 名 繼 の 相 あり 三 歳 寺 と 識 り
 三 衣 一 鉢 三 衣 唯 身 を 持 ち 一 錢 一 鉢 齋 食 あり 師 の 學 徳 既 世 中 あり 明 元 年
 辛 丑 十 月 十 四 日 北 寂 を 遇 世 七 五 臘 夏 三 十 六 其 徳 化 あり 世 小 竟 天 明 元 年
 略 す 又 師 生 平 撰 述 の 書 甚 多 く 予 小 判 せ ざる あり 世 小 竟 天 明 元 年
 四十部百四十有三卷あり云々
 當寺ハ常行念佛の道場なり 浙々々々 松風をとて 梵唄の
 声を 助け 去此 不遠の 秋の月ハ 長泉の流小也 実小 清浄無塵の
 浄刹中々 常ニ 寥寂とす

